令和７年度

# 京田辺市公営企業会計
# 決　算　審　査　意　見　書

京田辺市監査委員

京　監　委　第　４　６　号
令和８年(2026年)９月１日

京田辺市長
　上　村　　崇　　様

京田辺市監査委員　瀧　山　茂　樹

京田辺市監査委員　長　田　和　也

令和７年度京田辺市公営企業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法第３０条第２項の規定により、審査に付された令和７年度京田辺市公営企業会計決算を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出します。

# 令和７年度京田辺市公営企業会計決算審査意見

## 第１　審査の概要

地方公営企業法（以下「法」という。）第３０条第２項の規定により、京田辺市長から審査に付された令和７年度京田辺市公営企業会計決算について、京田辺市監査基準に準拠し、次のとおり審査した。

### １　審査の種類

法第３０条第２項の規定による決算審査

### ２　審査の対象

令和７年度　京田辺市水道事業会計決算
令和７年度　京田辺市公共下水道事業会計決算
令和７年度　京田辺市農業集落排水事業会計決算

### ３　審査の着眼点

市長から審査に付された決算書類が、法令に定める方式を基準として作成されているか確認するとともに、各会計決算書等の計数が関係諸帳簿と一致しているか照合する。

また、予算の執行状況、主な前年度との比較増減額及びその理由等については、所属別ヒアリングを実施し、関係職員から説明を受け審査を行い、必要に応じて現地調査を行う。

### ４　審査の主な実施内容

令和７年度の水道事業会計、公共下水道事業会計及び農業集落排水事業会計の決算審査に当たっては、審査に付された決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書、貸借対照表及びその他決算附属書類が法第３０条並びに同法施行令第２３条及び第２６条の２の規定に準拠して作成されているか、また、各公営企業の経営成績及び財政状態が適正に表示されているかを関係諸帳簿等と照合し、その計理手続き、計数の正否の確認を行った。

さらに予算の執行状況、主な前年度との比較増減額及びその理由等については、所属別ヒアリングを実施し、関係職員から説明を受け審査を行い、必要に応じて現地調査を行った。

５　審査の実施場所及び日程

（１）審査の実施場所

市役所庁舎４階　監査委員事務局

（２）審査の日程（実施期間）

令和８年７月１日から同年８月２６日まで

第２　審査の結果

審査に付された各事業会計の決算報告書、損益計算書、剰余金計算書､剰余金処分計算書、貸借対照表及びその他決算附属書類は、いずれも関係法令に準拠して適正に調製されていた。

また、現金、基金等の残高は、出納取扱金融機関及び収納取扱金融機関の現金保管状況内訳の最終分と合致しており、その各事業会計の計数は正確で、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

なお、各事業会計に係る決算の概要は、次のとおりである。

# 京田辺市公営企業会計

# 決算の概要

# 京田辺市公営企業会計　決算の概要

## 目　次


京田辺市水道事業会計 . . . . . ３

１　業務実績 . . . . . ４

２　予算執行 . . . . . ６

３　経営成績 . . . . . ８

４　財政状態 . . . . . １２

５　経営比較分析 . . . . . １５

６　キャッシュ・フロー . . . . . １８

７　むすび . . . . . ２０

京田辺市公共下水道事業会計 . . . . . ２１

１　業務実績 . . . . . ２２

２　予算執行 . . . . . ２４

３　経営成績 . . . . . ２６

４　財政状態 . . . . . ２９

５　経営比較分析 . . . . . ３２

６　キャッシュ・フロー . . . . . ３５

７　むすび . . . . . ３７

京田辺市農業集落排水事業会計 . . . . . ３９

１　業務実績 . . . . . ４０

２　予算執行 . . . . . ４２

３　経営成績 . . . . . ４４

４　財政状態 . . . . . ４６

５　経営比較分析 . . . . . ４９

６　キャッシュ・フロー . . . . . ５２

７　むすび . . . . . ５３

## 凡　　例

1　文中で用いる金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は四捨五入している。したがって、合計金額と内訳の計が一致しない場合がある。

2　比率（％）は、小数点以下第１位まで表示のものは小数点以下第２位を、小数点以下第２位まで表示のものは小数点以下第３位を四捨五入している。

3　対前年度比較の増減額及び増減率は、原則として円単位の差引数値によるものとしているため、千円単位の差引から算出する数値と一致しない場合がある。

4　構成比率（％）は、小数点以下第２位を四捨五入している。したがって、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

5　ポイントとは、百分率（％）間の単純差引数値である。

6　各表中の符号の用法は、次のとおりである。

「0」、「0.0」及び「0.00」･･･　0 又は単位未満のもの

「△」･･･････････････････････　減少又は負数

「－」･･･････････････････････　該当項目のないもの

# 京田辺市水道事業会計

1　業務実績

（1）業務量の状況

当年度の年間総給水量は 7,996,840 ㎥で、前年度と比べて 32,224 ㎥(0.4%)増加している。１日平均給水量は 21,909 ㎥で、前年度と比べて 88 ㎥(0.4%)増加しており、１日最大給水量は 23,822 ㎥で、前年度と比べて 375 ㎥(1.6%)増加している。

また、1 日配水能力は 27,366 ㎥で、前年度と比べて 998 ㎥(3.8%)増加している。

これにより、施設の効率性の目安となる施設利用率は前年度と比べて 2.7 ポイント低下し 80.1%、最大稼働率は前年度と比べて 1.9 ポイント低下し 87.0%である。

**[主 な 業 務 量 の 推 移]**

| 区　　分 | 単位 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 行政区域内人口 | 人 | 70,756 | 71,558 | 71,579 | 71,673 | 71,569 |
| 給水区域内人口 a | 人 | 70,756 | 71,558 | 71,579 | 71,673 | 71,569 |
| 年度末給水人口 b | 人 | 70,432 | 71,238 | 71,257 | 71,402 | 71,258 |
| 普及率　b/a × 100 | % | 99.5 | 99.6 | 99.6 | 99.6 | 99.6 |
| 年度末給水件数 | 件 | 23,109 | 23,369 | 23,614 | 23,804 | 23,961 |
| 年間総給水量 c | ㎥ | 7,967,368 | 8,034,750 | 7,952,177 | 7,964,616 | 7,996,840 |
| うち、自己水構成比 | % | 46.3 | 55.0 | 55.9 | 54.3 | 55.1 |
| うち、府営水構成比 | % | 53.7 | 45.0 | 44.1 | 45.7 | 44.9 |
| 1 日平均給水量 d | ㎥ | 21,828 | 22,013 | 21,727 | 21,821 | 21,909 |
| 1 日最大給水量 e | ㎥ | 23,607 | 24,198 | 23,468 | 23,447 | 23,822 |
| 1 日配水能力 f | ㎥ | 26,178 | 27,306 | 26,774 | 26,368 | 27,366 |
| 施設利用率 d/f × 100 | % | 83.4 | 80.6 | 81.2 | 82.8 | 80.1 |
| 最大稼働率 e/f × 100 | % | 90.2 | 88.6 | 87.7 | 88.9 | 87.0 |
| 負荷率　d/e × 100 | % | 92.5 | 91.0 | 92.6 | 93.1 | 92.0 |
| 年間有収水量 g | ㎥ | 7,658,808 | 7,641,171 | 7,645,689 | 7,661,255 | 7,653,599 |
| 年間有収率 g/c × 100 | % | 96.1 | 95.1 | 96.1 | 96.2 | 95.7 |
| 年度末送・配水管延長 | km | 358.20 | 359.38 | 361.37 | 362.98 | 364.30 |

（2）給水量の状況

当年度の年間有収水量は 7,653,599 ㎥で、前年度と比べて 7,656 ㎥(0.1%)減少している。

また、年間総給水量に対する収益性を示す有収率は、前年度と比べて 0.5 ポイント低下し 95.7%である。

なお、年間総給水量のうち府営水の構成比は、前年度と比べて 0.8 ポイント低下し 44.9%である。

（3）職員数

当年度末の職員数は 30 人で、前年度と同数である。

**[職員数の推移(各年度末現在)]**

（単位：人）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 部　　長 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 経営管理室 | 11 | 10 | 12 | 13 | 13 |
| 上水道課 | 19 | 19 | 18 | 16 | 16 |
| 計 | 31 | 30 | 31 | 30 | 30 |

（注）　再任用短時間勤務職員を含む。ただし、会計年度任用職員は含まない。

（4）建設改良事業

当年度の建設改良費は 1,316,816 千円で、前年度と比べて 566,664 千円(75.5%)増加している。事業の内容は、配水設備関係では薪他地内導水管布設工事や打田他地内送配水管改良工事（第 1 工区）などを実施し、施設改良・拡張事業関係では大住高区配水池築造工事や大住低区配水池受変電設備等更新工事や田辺第２取水井改修工事などを実施している。

また、これらの配水設備関係の事業を実施される際には水道管の耐震化も進められており、当年度は耐震管の延長は 1,968m 増加して 80,202m となり、耐震化率は前年度と比べて 0.5 ポイント向上し 21.9%である。

**[建 設 改 良 費 の 推 移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 建設改良費 | 1,320,979 | 821,448 | 797,079 | 750,152 | 1,316,816 |

**[管路の耐震化率等の推移]**

（単位：m、%）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 耐震管延長 | 71,816 | 73,935 | 76,008 | 78,234 | 80,202 |
| 管路の耐震化率 | 19.9 | 20.4 | 20.9 | 21.4 | 21.9 |

2　予算執行

（1）収益的収入及び支出（税込み）

当年度の収益的収入及び収益的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

［収　益　的　収　入］

（単位：千円、％）

| 区　分 | 予算額 | 決算額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前年度決算額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水道事業収益 | 1,860,000 | 1,799,519 | △ 60,481 | 96.7 | 1,857,663 |
| 営業収益 | 1,272,716 | 1,220,666 | △ 52,050 | 95.9 | 1,250,545 |
| 営業外収益 | 587,282 | 577,838 | △ 9,444 | 98.4 | 607,105 |
| 特別利益 | 2 | 1,015 | 1,013 | 50,750.0 | 13 |

収益的収入の決算額は1,799,519千円で、前年度と比べて58,144千円減少している。予算額1,860,000千円に対し60,481千円下回っており、収入率は96.7％である。

［収　益　的　支　出］

（単位：千円、％）

| 区　分 | 予算額 | 決算額 | 地方公営企業法第26条第2項ただし書の規定による繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前年度決算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 水道事業費用 | 1,847,000 | 1,741,519 | 0 | 105,481 | 94.3 | 1,804,858 |
| 営業費用 | 1,736,104 | 1,645,720 | 0 | 90,384 | 94.8 | 1,598,525 |
| 営業外費用 | 100,850 | 90,817 | 0 | 10,033 | 90.1 | 204,509 |
| 特別損失 | 5,046 | 4,983 | 0 | 63 | 98.8 | 1,824 |
| 予備費 | 5,000 | 0 | 0 | 5,000 | 0.0 | 0 |

収益的支出の決算額は1,741,519千円で、前年度と比べて63,338千円減少している。予算額1,847,000千円に対する執行率は94.3％である。

なお、収益的収入の決算額から収益的支出の決算額を差し引いた収益的収支差引額は、58,000千円である。

（2）資本的収入及び支出（税込み）

当年度の資本的収入及び資本的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

## ［資　本　的　収　入］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資　本　的　収　入 | 964,490 | 465,768 | △ 498,722 | 48.3 | 245,044 |
| 分　　担　　金 | 60,170 | 34,941 | △ 25,229 | 58.1 | 148,791 |
| 工　事　負　担　金 | 13,638 | 11,471 | △ 2,167 | 84.1 | 2,100 |
| 固定資産売却代金 | 1 | 75 | 74 | 7,489.3 | 0 |
| 建　設　基　金　繰　入　金 | 818,481 | 335,418 | △ 483,063 | 41.0 | 13,715 |
| 基　金　収　入 | 17,700 | 29,363 | 11,663 | 165.9 | 50,006 |
| 国　庫　補　助　金 | 0 | 0 | 0 | － | 931 |
| その他資本的収入 | 54,500 | 54,500 | 0 | 100.0 | 29,500 |

資本的収入の決算額は 465,768 千円で、前年度と比べて 220,724 千円増加している。予算額 964,490 千円に対して 498,722 千円下回っており、収入率は 48.3％である。

## ［資　本　的　支　出］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 地方公営企業法第26条の規定による繰越額 | 継　続　費逓次繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資　本　的　支　出 | 2,619,835 | 1,357,996 | 634,000 | 0 | 627,839 | 51.8 | 809,340 |
| 建　設　改　良　費 | 2,471,293 | 1,316,816 | 634,000 | 0 | 520,477 | 53.3 | 750,152 |
| 企業債償還金 | 13,992 | 13,991 | 0 | 0 | 1 | 100.0 | 13,715 |
| 積　　立　　金 | 27,190 | 27,189 | 0 | 0 | 1 | 100.0 | 45,472 |
| その他資本的収出 | 107,360 | 0 | 0 | 0 | 107,360 | 0.0 | 0 |

資本的支出の決算額は 1,357,996 千円で、前年度と比べて 548,656 千円増加している。予算額 2,619,835 千円に対する執行率は 51.8％である。

建設改良費の翌年度繰越額は 634,000 千円で、薪浄水場中央監視システム更新工事ほか 14 事業に係るものである。

なお、資本的収入の決算額が資本的支出の決算額に対して不足する額 892,228 千円は、次の財源により補てんされている。

・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額　109,866,592 円
・過年度分損益勘定留保資金　782,361,845 円

## 3　経営成績

### （1）経営成績の概要

損益計算書を当年度と前年度で比較したものは、次表のとおりである。

**[損 益 計 算 書 比 較 表]**

（単位：円、％）

| 科目 | | 金　額（税抜き） | | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 令和７年度 | 令和６年度 | 増減額 | 増減率 |
| 営業収益 | | 1,110,273,517 | 1,137,443,874 | △ 27,170,357 | △ 2.4 |
| | 給水収益 | 1,057,319,784 | 1,055,875,894 | 1,443,890 | 0.1 |
| | 受託工事収益 | 10,432,694 | 36,226,267 | △ 25,793,573 | △ 71.2 |
| | その他の営業収益 | 42,521,039 | 45,341,713 | △ 2,820,674 | △ 6.2 |
| 営業費用 | | 1,579,345,986 | 1,533,564,326 | 45,781,660 | 3.0 |
| | 原水及び浄水費 | 614,240,359 | 603,086,017 | 11,154,342 | 1.8 |
| | 配水及び給水費 | 76,074,076 | 88,027,326 | △ 11,953,250 | △ 13.6 |
| | 受託工事費 | 27,883,068 | 18,585,851 | 9,297,217 | 50.0 |
| | 総係費 | 185,187,976 | 182,108,619 | 3,079,357 | 1.7 |
| | 減価償却費 | 632,259,434 | 624,410,232 | 7,849,202 | 1.3 |
| | 資産減耗費 | 43,701,073 | 17,346,281 | 26,354,792 | 151.9 |
| | その他営業費用 | 0 | 0 | 0 | － |
| 営業利益（△損失） | | △ 469,072,469 | △ 396,120,452 | △ 72,952,017 | △ 18.4 |
| 営業外収益 | | 568,374,243 | 588,280,863 | △ 19,906,620 | △ 3.4 |
| | 受取利息及び配当金 | 1,940,750 | 798,500 | 1,142,250 | 143.0 |
| | 基金補助金 | 122,496,713 | 112,083,448 | 10,413,265 | 9.3 |
| | 受水負担金 | 204,946,820 | 146,042,583 | 58,904,237 | 40.3 |
| | 基金収益 | 89,682,822 | 181,446,801 | △ 91,763,979 | △ 50.6 |
| | 長期前受金戻入益 | 137,779,780 | 138,018,223 | △ 238,443 | △ 0.2 |
| | 引当金戻入益 | 35,568 | 0 | 35,568 | 皆増 |
| | 雑収益 | 11,491,790 | 9,891,308 | 1,600,482 | 16.2 |
| 営業外費用 | | 90,816,513 | 182,856,172 | △ 92,039,659 | △ 50.3 |
| | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 1,133,690 | 1,409,371 | △ 275,681 | △ 19.6 |
| | 雑支出 | 1 | 0 | 1 | 皆増 |
| | 積立金 | 89,682,822 | 181,446,801 | △ 91,763,979 | △ 50.6 |
| 経常利益（△損失） | | 8,485,261 | 9,304,239 | △ 818,978 | △ 8.8 |
| 特別利益 | | 922,391 | 12,580 | 909,811 | 7,232.2 |
| | 固定資産売却益 | 346,461 | 0 | 346,461 | 皆増 |
| | 過年度損益修正益 | 575,930 | 12,580 | 563,350 | 4,478.1 |
| | その他特別利益 | 0 | 0 | 0 | － |
| 特別損失 | | 4,581,663 | 1,695,398 | 2,886,265 | 170.2 |
| | 固定資産売却損 | 0 | 0 | 0 | － |
| | 過年度損益修正損 | 4,581,663 | 1,695,398 | 2,886,265 | 170.2 |
| 当年度純利益（△損失） | | 4,825,989 | 7,621,421 | △ 2,795,432 | △ 36.7 |
| 前年度繰越利益剰余金 | | 755,629,172 | 748,007,751 | 7,621,421 | 1.0 |
| 当年度未処分利益剰余金 | | 760,455,161 | 755,629,172 | 4,825,989 | 0.6 |

ア　営業収益

営業収益は1,110,274千円で、前年度と比べて27,170千円(2.4%)減少している。その主な要因は、給水収益が 1,444 千円 (0.1%) 増加したものの、受託工事収益が25,794千円 (71.2%)、その他の営業収益が2,821千円(6.2%)減少したためである。

イ　営業費用

営業費用は1,579,346千円で、前年度と比べて45,782千円(3.0%)増加している。その主な要因は、配水及び給水費が11,953千円 (13.6%) 減少したものの、原水及び浄水費が11,154千円(1.8%)、受託工事費が9,297千円 (50.0%)、総係費が3,079千円(1.7%)、減価償却費が7,849千円(1.3%)、資産減耗費が26,355千円(151.9%)増加したためである。

ウ　営業利益（△損失）

営業収益から営業費用を差し引いた結果は、469,072千円の営業損失である。

エ　営業外収益・営業外費用

営業外収益は568,374千円で、前年度と比べて19,907千円(3.4%)減少している。その主な要因は、基金補助金が10,413千円(9.3%)、受水負担金が58,904千円(40.3%)増加しているものの、基金収益が91,764千円(50.6%)減少したためである。

営業外費用は90,817千円で、前年度と比べて92,040千円(50.3%)減少している。その主な要因は、料金調整基金分担金積立の減少に伴い積立金が 91,764 千円(50.6%)減少したためである。

オ　経常利益（△損失）

営業損失に営業外収益及び営業外費用を加減した結果は、8,485千円の経常利益となり、前年度と比べて819千円(8.8%)減少している。

カ　特別利益・特別損失

特別利益は922千円で、前年度と比べて910千円(7,232.2%)増加している。

また、特別損失は4,582千円で、前年度と比べて2,886千円(170.2%)増加している。

キ　当年度純利益（△損失）

経常利益に特別利益及び特別損失を加減した結果は、4,826千円の当年度純利益となり、前年度と比べて2,795千円(36.7%)減少している。

ク　当年度未処分利益剰余金

前年度繰越利益剰余金に当年度純利益を加えた当年度未処分利益剰余金は、760,455千円で、前年度と比べて4,826千円(0.6%)増加している。

なお、当年度において、利益剰余金の処分は行われていない。

ケ　損益状況

損益状況の５年間の推移は、次表のとおりである。

［損　益　状　況　の　推　移］

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 営　業　収　益 | 1,101,673 | 1,111,363 | 1,128,769 | 1,137,444 | 1,110,274 |
| 営業利益（△損失） | △ 314,922 | △ 284,181 | △ 267,885 | △ 396,120 | △ 469,072 |
| 経　常　利　益 | 11,979 | 21,582 | 10,195 | 9,304 | 8,485 |
| 当年度純利益 | 9,881 | 20,799 | 9,752 | 7,621 | 4,826 |

コ　給水原価及び供給単価（１㎥当たりの単価は税抜き）

給水原価と供給単価の推移は、次表のとおりである。

当年度における有収水量１㎥当たりの給水原価は184円86銭で、前年度と比べて４円95銭増加し、供給単価は138円15銭で、前年度と比べて33銭増加している。

料金回収率は74.7％と前年度と比べて1.9ポイント低下し、有収水量１㎥当たりの単価差は46円71銭で、前年度と比べて４円62銭増加している。

この単価差に対しては、京都府営水道の受水に要する費用の水道料金への負担軽減を図るために京田辺市水道事業料金調整基金を設置し、毎年度、一定の取り崩しがなされている。当年度の取崩額は、府営水道の使用水量に対して基金補助金１㎥当たり31円(前年度対比３円増額)、契約水量の内3,653,241㎥に対して受水負担金１㎥当たり51円(前年度対比４円減額)を補てんしている。

［給水原価及び供給単価の推移］

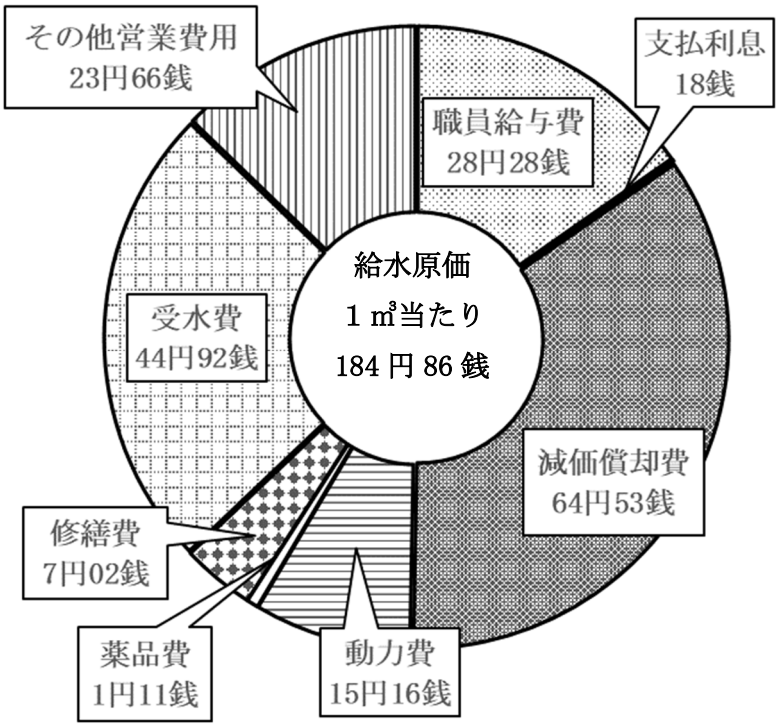
（単位：円、％）

| 区　　分 | | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 給水原価 a | | 166.28 | 162.91 | 161.76 | 179.91 | 184.86 |
| | 職員給与費 | 21.49 | 17.92 | 16.18 | 28.42 | 28.28 |
| | 支払利息 | 0.29 | 0.32 | 0.16 | 0.18 | 0.18 |
| | 減価償却費 | 52.81 | 58.48 | 60.17 | 63.51 | 64.53 |
| | 動力費 | 12.86 | 16.94 | 13.75 | 14.75 | 15.16 |
| | 薬品費 | 0.72 | 0.81 | 0.97 | 0.90 | 1.11 |
| | 修繕費 | 6.12 | 7.16 | 6.47 | 6.48 | 7.02 |
| | 受水費 | 53.05 | 45.28 | 44.97 | 45.34 | 44.92 |
| | その他営業費用 | 18.94 | 16.00 | 19.09 | 20.33 | 23.66 |
| 供給単価 b | | 137.19 | 137.20 | 137.63 | 137.82 | 138.15 |
| 差引損益 b-a | | △ 29.09 | △ 25.71 | △ 24.13 | △ 42.09 | △ 46.71 |
| 料金回収率 b/a | | 82.5 | 84.2 | 85.1 | 76.6 | 74.7 |

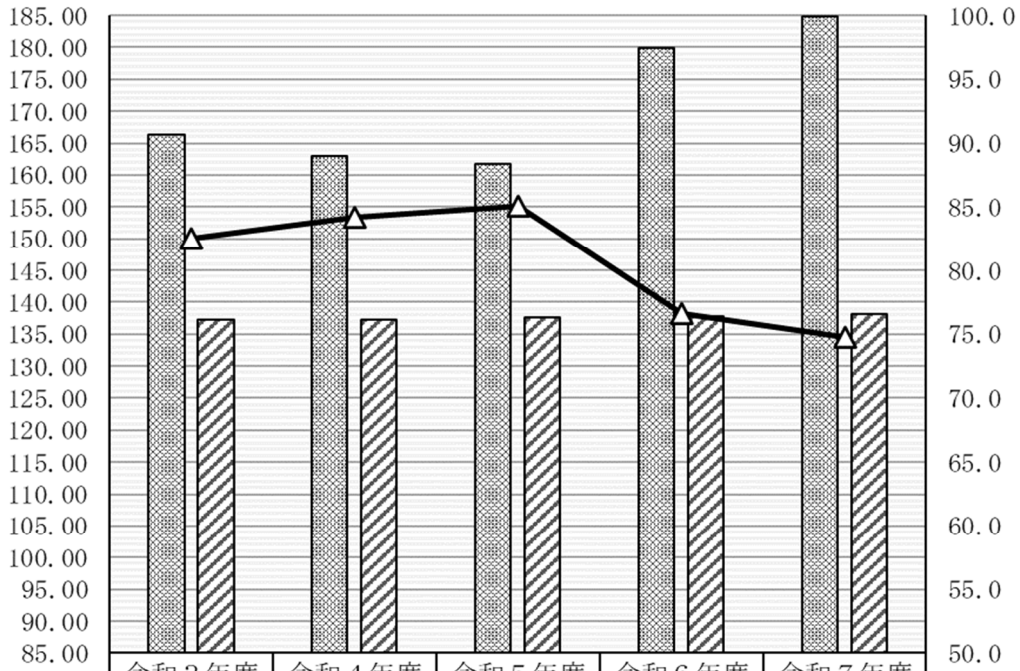
（注）１　給水原価＝ $\dfrac{\text{経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費)-長期前受金戻入}}{\text{年間有収水量}}$

２　供給単価＝ $\dfrac{\text{給水収益}}{\text{年間有収水量}}$

［給水１㎥当たりの原価費用構成］




［給水原価及び供給単価と料金回収率の推移］




| | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 給水原価(円) | 166.28 | 162.91 | 161.76 | 179.91 | 184.86 |
| 供給単価(円) | 137.19 | 137.20 | 137.63 | 137.82 | 138.15 |
| 料金回収率(%) | 82.5 | 84.2 | 85.1 | 76.6 | 74.7 |

4　財政状態

（1）財政状態の概要

当年度末における資産合計及び負債資本合計は、それぞれ 19,194,237 千円で、前年度と比べて 285,790 千円(1.5%)減少している。

**[貸 借 対 照 表 比 較 表]**

（単位：千円、%）

| 区分 | | 令和７年度 | | 令和６年度 | | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額（税抜き） | 構成比率 | 金額（税抜き） | 構成比率 | 増減額 | 増減率 |
| 資産の部 | 固定資産 | 16,705,319 | 87.0 | 16,812,595 | 86.3 | △ 107,277 | △ 0.6 |
| | 有形固定資産 | 14,825,526 | 77.2 | 14,294,275 | 73.4 | 531,251 | 3.7 |
| | 無形固定資産 | 63,331 | 0.3 | 62,870 | 0.3 | 461 | 0.7 |
| | 投資 | 1,816,462 | 9.5 | 2,455,450 | 12.6 | △ 638,989 | △ 26.0 |
| | 流動資産 | 2,488,918 | 13.0 | 2,667,431 | 13.7 | △ 178,513 | △ 6.7 |
| | 現金 | 170 | 0.0 | 170 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 預金 | 2,084,993 | 10.9 | 2,310,507 | 11.9 | △ 225,514 | △ 9.8 |
| | 営業未収金 | 48,096 | 0.3 | 47,776 | 0.2 | 320 | 0.7 |
| | 営業外未収金 | 75,077 | 0.4 | 27 | 0.0 | 75,050 | 275,918.7 |
| | その他未収金 | 4,010 | 0.0 | 2,131 | 0.0 | 1,879 | 88.2 |
| | 貸倒引当金 | △ 506 | － | △ 491 | － | △ 15 | － |
| | 貯蔵品 | 13,377 | 0.1 | 13,051 | 0.1 | 326 | 2.5 |
| | 短期貸付金 | 93,000 | 0.5 | 54,500 | 0.3 | 38,500 | 70.6 |
| | 前払金 | 170,700 | 0.9 | 239,760 | 1.2 | △ 69,060 | △ 28.8 |
| | 保管有価証券 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 資産合計 | 19,194,237 | 100.0 | 19,480,027 | 100.0 | △ 285,790 | △ 1.5 |
| 負債の部・資本の部 | 固定負債 | 368,600 | 1.9 | 620,733 | 3.2 | △ 252,133 | △ 40.6 |
| | 企業債 | 31,901 | 0.2 | 46,174 | 0.2 | △ 14,272 | △ 30.9 |
| | 引当金 | 336,699 | 1.8 | 574,459 | 2.9 | △ 237,761 | △ 41.4 |
| | その他固定負債 | 0 | 0.0 | 100 | 0.0 | △ 100 | 皆減 |
| | 流動負債 | 405,747 | 2.1 | 382,469 | 2.0 | 23,278 | 6.1 |
| | 企業債 | 14,272 | 0.1 | 13,991 | 0.1 | 281 | 2.0 |
| | 賞与引当金 | 26,189 | 0.1 | 24,688 | 0.1 | 1,501 | 6.1 |
| | 営業未払金 | 80,904 | 0.4 | 83,495 | 0.4 | △ 2,592 | △ 3.1 |
| | 営業外未払金 | 0 | 0.0 | 14,252 | 0.1 | △ 14,252 | 皆減 |
| | その他未払金 | 267,366 | 1.4 | 219,773 | 1.1 | 47,592 | 21.7 |
| | 営業前受金 | 854 | 0.0 | 791 | 0.0 | 63 | 8.0 |
| | その他流動負債 | 16,162 | 0.1 | 25,478 | 0.1 | △ 9,316 | △ 36.6 |
| | 繰延収益 | 2,647,366 | 13.8 | 2,768,081 | 14.2 | △ 120,715 | △ 4.4 |
| | 長期前受金 | 2,647,366 | 13.8 | 2,768,081 | 14.2 | △ 120,715 | △ 4.4 |
| | 負債合計 | 3,421,713 | 17.8 | 3,771,283 | 19.4 | △ 349,570 | △ 9.3 |
| | 資本金 | 7,641,610 | 39.8 | 7,306,193 | 37.5 | 335,418 | 4.6 |
| | 資本金 | 7,641,610 | 39.8 | 7,306,193 | 37.5 | 335,418 | 4.6 |
| | 剰余金 | 8,130,913 | 42.4 | 8,402,550 | 43.1 | △ 271,638 | △ 3.2 |
| | 資本剰余金 | 7,196,458 | 37.5 | 7,472,921 | 38.4 | △ 276,464 | △ 3.7 |
| | 利益剰余金 | 934,455 | 4.9 | 929,629 | 4.8 | 4,826 | 0.5 |
| | 資本合計 | 15,772,523 | 82.2 | 15,708,743 | 80.6 | 63,780 | 0.4 |
| | 負債資本合計 | 19,194,237 | 100.0 | 19,480,027 | 100.0 | △ 285,790 | △ 1.5 |

ア　資産

資産合計は 19,194,237 千円で、固定資産が 16,705,319 千円(有形固定資産 14,825,526 千円、無形固定資産 63,331 千円、投資 1,816,462 千円)、流動資産が 2,488,918 千円となっている。

固定資産は、前年度と比べて 107,277 千円(0.6%)減少している。その要因は、有形固定資産が 531,251 千円(3.7%)、無形固定資産が 461 千円(0.7%)増加したが、投資が 638,989 千円(26.0%)減少したためである。

次に、流動資産は、前年度と比べて 178,513 千円(6.7%)減少している。その主な要因は、営業外未収金が 75,050 千円(275,918.7%)、短期貸付金が 38,500 千円(70.6%)増加したが、預金 225,514 千円(9.8%)、前払金が 69,060 千円(28.8%)減少したためである。なお、給水収益、受託工事収益などの未収金債権の将来の貸倒れに備えて、回収することが困難と見込まれる額を費用として計上する貸倒引当金は、506 千円となっている。

また、未収金のうち水道料金等に係る営業未収金は 48,096 千円となっている。引き続き適正な債権管理に努められたい。

イ　負債

負債は 3,421,713 千円(固定負債 368,600 千円、流動負債 405,747 千円、繰延収益 2,647,366 千円)で、前年度と比べて 349,570 千円(9.3%)減少している。

固定負債は、前年度と比べて 252,133 千円(40.6%)減少している。その要因は、企業債が 14,272 千円(30.9%)、引当金が 237,761 千円(41.4%)減少したためである。

流動負債は、前年度と比べて 23,278 千円(6.1%)増加している。その主な要因は、営業未払金が 2,592 千円(3.1%)、営業外未払金が 14,252 千円(皆減)、その他流動負債が 9,316 千円(36.6%)減少したが、賞与引当金が 1,501 千円(6.1%)、その他未払金が 47,592 千円(21.7%)増加したためである。

繰延収益は、前年度と比べて 120,715 千円(4.4%)減少している。その要因は、長期前受金が 120,715 千円(4.4%)減少したためである。

**[企 業 債 残 高 等 の 推 移]**

(単位：円)

| 区　　分 | 借入高 | 償還高 | 年度末残高 |
|---|---|---|---|
| 令　和　3　年　度 | 0 | 12,920,591 | 100,505,801 |
| 令　和　4　年　度 | 0 | 13,180,295 | 87,325,506 |
| 令　和　5　年　度 | 0 | 13,445,220 | 73,880,286 |
| 令　和　6　年　度 | 0 | 13,715,467 | 60,164,819 |
| 令　和　7　年　度 | 0 | 13,991,148 | 46,173,671 |

ウ　資本

資本合計は 15,772,523 千円（資本金 7,641,610 千円、剰余金 8,130,913 千円）で、前年度と比べて 63,780 千円(0.4%)増加している。

資本金は、前年度と比べて 335,418 千円(4.6%)増加している。その要因は、建設基金からの繰入により 335,418 千円(4.6%)増加したためである。

剰余金は、前年度と比べて 271,638 千円(3.2%)減少している。その主な要因は、資本剰余金が 276,464 千円(3.7%)減少したためである。

なお、令和７年度末残高の利益剰余金は 934,455 千円であり、うち未処分利益剰余金 760,455 千円を翌年度繰越としている。

［資本金及び剰余金の変動］

（単位：千円）

| 区　分 | 資本金 | 剰余金 | | | | | 資本合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 資本剰余金 | 利益剰余金 | | | | |
| | | 資本剰余金合計 | 利益積立金 | 建設改良積立金 | 未処分利益剰余金 | 利益剰余金合計 | |
| 令和６年度末残高 | 7,306,193 | 7,472,921 | 100,000 | 74,000 | 755,629 | 929,629 | 15,708,743 |
| 令和６年度処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法令による処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減債積立金の積立て | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 7,306,193 | 7,472,921 | 100,000 | 74,000 | 755,629 | 929,629 | 15,708,743 |
| 令和７年度変動額 | 335,418 | △ 276,464 | 0 | 0 | 4,826 | 4,826 | 63,780 |
| 減債積立金からの組入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設基金からの繰入 | 335,418 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 335,418 |
| 企業債の負債への振替 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 給水分担金受入 | 0 | 31,765 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31,765 |
| 受贈財産の積立 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 工事負担金の積立 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設基金の積立 | 0 | 27,189 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27,189 |
| 建設基金の取崩 | 0 | △ 335,418 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 335,418 |
| 減債積立金の取崩 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期前受金への振替 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他未処分利益剰余金変動額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 令和７年度純利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,826 | 4,826 | 4,826 |
| 令和７年度末残高 | 7,641,610 | 7,196,458 | 100,000 | 74,000 | 760,455 | 934,455 | 15,772,523 |

［剰 余 金 処 分 計 算 書］

（単位：千円）

| 区　分 | 資本金 | 資本剰余金 | 未処分利益剰余金 |
|---|---|---|---|
| 令和７年度末残高 | 7,641,610 | 7,196,458 | 760,455 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 当年度処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 7,641,610 | 7,196,458 | （翌年度繰越利益剰余金）760,455 |

## 5　経営比較分析

総務省において、各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成される「経営比較分析表」が公表されている。

これは、各公営企業において、経営比較分析表を活用することにより、経年比較や類似団体との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することを可能とするためのものである。

指標の比較については、次表のとおりである。

**［経　営　比　較　分　析　表］**

| | 指　　標<br>（ ）内は単位 | 算　出　式 | 令和<br>７年度 | 令和<br>６年度 | 類似団体平均<br>（令和６年度） |
|---|---|---|---|---|---|
| 経営の健全性・効率性 | ①経常収支比率<br>（%） | 経常収益 ／ 経常費用 ×100 | 100.51 | 100.54 | 107.61 |
| | ②累積欠損金比率<br>（%） | 当年度未処理欠損金 ／ 営業収益－受託工事収益 ×100 | 0.00 | 0.00 | 1.24 |
| | ③流動比率<br>（%） | 流動資産 ／ 流動負債 ×100 | 613.42 | 697.42 | 326.02 |
| | ④企業債残高対給水収益比率<br>（%） | 企業債現在高合計 ／ 給水収益 ×100 | 4.37 | 5.70 | 300.54 |
| | ⑤料金回収率<br>（%） | 供給単価 ／ 給水原価 ×100 | 74.73 | 76.60 | 99.24 |
| | ⑥給水原価<br>（円） | 経常費用－（受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費）－長期前受金戻入 ／ 年間総有収水量 | 184.86 | 179.91 | 178.92 |
| | ⑦施設利用率<br>（%） | 一日平均配水量 ／ 一日配水能力 ×100 | 80.06 | 82.76 | 59.17 |
| | ⑧有収率<br>（%） | 年間総有収水量 ／ 年間総配水量 ×100 | 95.71 | 96.19 | 86.58 |
| 老朽化の状況 | ⑨有形固定資産減価償却率<br>（%） | 有形固定資産減価償却累計額 ／ 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価 ×100 | 51.87 | 51.99 | 52.02 |
| | ⑩管路経年化率<br>（%） | 法定耐用年数を経過した管路延長 ／ 管路延長 ×100 | 24.01 | 21.21 | 24.61 |
| | ⑪管路更新率<br>（%） | 当該年度に更新した管路延長 ／ 管路延長 ×100 | 0.25 | 0.09 | 0.54 |

（注）令和７年度決算に係る経営比較分析表は現時点では未公表であるため、令和７年度の数値は決算審査資料の数値を採用している。

### ①　経常収支比率　「経常損益」

経常費用が経常収益でどの程度賄えているかを表す指標で、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。

令和７年度の経常収支比率は 100.51%であり、営業収支の赤字分を基金からの補てんにより収支均衡を図っているため、100%を大きく上回らない状況で推移している。

② 累積欠損金比率 「累積欠損」

営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した損失）の状況を表す指標で、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められる。本市は、累積欠損金が発生していないため、0%で推移している。

③ 流動比率 「支払能力」

短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す 100%以上であることが必要である。

令和７年度の流動比率は 613.42%であり、十分な流動資産を保有していることから、支払能力は確保されている。

④ 企業債残高対給水収益比率 「債務残高」

給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和７年度の企業債残高対給水収益比率は 4.37%であり、建設基金の活用により企業債借入を抑制してきたため、類似団体平均と比較しても非常に低い状況で推移している。

⑤ 料金回収率 「料金水準の適切性」

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標で100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味している。

令和７年度の料金回収率は74.73%であり、水道料金だけでは水道水を供給する費用を賄えておらず、類似団体平均と比較しても非常に低い状況で推移している。

⑥ 給水原価 「費用の効率性」

有収水量 1 ㎥当たりにどれだけの費用がかかっているかを表す指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和７年度の給水原価は184円86銭であり、前年度と比べて給水原価は上昇し、類似団体平均よりやや高い状況である。

⑦　施設利用率　「施設の効率性」

一日配水能力に対する一日平均配水量の割合で、施設の利用状況や適正規模を判断する指標であり、明確な数値基準はないと考えられているが、一般的には高い数値であることが望まれる。

令和７年度の施設利用率は 80.06％であり、類似団体平均を上回る数値で推移しており、施設は効率的に利用されている状況である。

⑧　有収率　「供給した配水量の効率性」

施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標で、100％に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。

令和７年度の有収率は 95.71％であり、類似団体平均以上の数値で推移している。

⑨　有形固定資産減価償却率　「施設全体の減価償却の状況」

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。一般的に、100％に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。

令和７年度の有形固定資産減価償却率は 51.87％であり、類似団体平均と同程度の割合で推移している。

⑩　管路経年化率　「管路の経年化の状況」

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和７年度の管路経年化率は 24.01％であり、類似団体平均よりやや低い状況で推移しており、計画的に配水管改良工事を進めている。

⑪　管路更新率　「管路の更新投資の実施状況」

当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。明確な数値基準はないと考えられているが、数値が 1％の場合、すべての管路を更新するのに 100 年かかる更新ペースであることが把握できる。

令和７年度の管路更新率は 0.25％であり、類似団体平均より低い状況であるが、これは、配水管改良工事等が繰越となったことによるものである。

6　キャッシュ・フロー

このキャッシュ・フロー計算書は、キャッシュ・フローを業務活動、投資活動及び財務活動の三つに区分して表示し、一事業年度の資金収支合計を表示している。

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表している。また、投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の購入、売却等によるもので、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表している。計画的に建設改良等を行っていれば、通常はマイナスとなる。さらに、財務活動によるキャッシュ・フローは、業務活動及び投資活動を行うための資金調達や返済の財務活動に係る資金の状態を表している。

当年度のキャッシュ・フロー計算書は、前年度と比べて次表のとおりである。

# [キャッシュ・フロー計算書比較表]

（単位：円）

| 区　　分 | 令和７年度<br>（税抜き） | 令和６年度<br>（税抜き） | 増減額 |
|---|---|---|---|
| **１　業務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 当年度純利益（△は純損失） | 4,825,989 | 7,621,421 | △ 2,795,432 |
| 減価償却費 | 632,259,434 | 624,410,232 | 7,849,202 |
| 長期前受金戻入額 | △ 137,779,780 | △ 138,018,223 | 238,443 |
| 固定資産除却費 | 43,701,073 | 17,346,281 | 26,354,792 |
| 固定資産売却益 | △ 346,461 | 0 | △ 346,461 |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 | 0 |
| 受取利息 | △ 1,940,750 | △ 798,500 | △ 1,142,250 |
| 支払利息 | 1,133,690 | 1,409,371 | △ 275,681 |
| 未収金の増減額（△は増額） | △ 77,249,203 | 14,423,106 | △ 91,672,309 |
| 貸倒引当金の増減額（△は減額） | 14,783 | 324,293 | △ 309,510 |
| 貯蔵品の増減（△は増額） | △ 326,046 | △ 572,885 | 246,839 |
| 修繕引当金の増減額（△は減額） | 0 | 0 | 0 |
| 賞与引当金の増減額（△は減額） | 1,501,000 | 9,174,000 | △ 7,673,000 |
| 資本的支出分賞与引当金の増減額（△は増額） | △ 555,000 | 454,000 | △ 1,009,000 |
| 営業未払金の増減額（△は減額） | △ 2,591,624 | 18,868,592 | △ 21,460,216 |
| 営業外未払金の増減額（△は減額） | △ 14,252,400 | 4,385,000 | △ 18,637,400 |
| 前受金の増減額（△は減額） | 63,323 | △ 652,649 | 715,972 |
| その他流動負債の増減額（△は減額） | △ 9,315,972 | △ 109,710,238 | 100,394,266 |
| **小計　（A）** | 439,142,056 | 448,663,801 | △ 9,521,745 |
| **利息及び配当金受取額　（B）** | 1,940,750 | 798,500 | 1,142,250 |
| **利息の支払額　（C）** | △ 1,133,690 | △ 1,409,371 | 275,681 |
| **業務活動によるキャッシュ・フロー（D）＝（A）＋（B）＋（C）** | **439,949,116** | **448,052,930** | **△ 8,103,814** |
| **２　投資活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 建設改良費（預託金を除く） | △ 1,201,591,791 | △ 687,112,049 | △ 514,479,742 |
| 預託金による支出 | 0 | △ 6,960 | 6,960 |
| 固定資産売却収入 | 414,546 | 0 | 414,546 |
| 前払金の増減額（△は増額） | 69,060,000 | △ 42,330,000 | 111,390,000 |
| 建設工事等未払金の増減額（△は減額） | 47,592,400 | 103,169,382 | △ 55,576,982 |
| 工事負担金収入 | 11,470,910 | 2,099,900 | 9,371,010 |
| 国庫補助金収入 | 0 | 931,000 | △ 931,000 |
| 建設基金取崩額 | 335,417,548 | 13,715,467 | 321,702,081 |
| 分担金収入 | 31,764,551 | 135,264,344 | △ 103,499,793 |
| 長期貸付金による収入 | 54,500,000 | 29,500,000 | 25,000,000 |
| 長期貸付金による支出 | 0 | 0 | 0 |
| 有価証券の取得による支出 | △ 798,702,000 | △ 699,859,000 | △ 98,843,000 |
| 有価証券の売却による収入 | 798,702,000 | 699,859,000 | 98,843,000 |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー（E）** | **△ 651,371,836** | **△ 444,768,916** | **△ 206,602,920** |
| **３　財務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 企業債の償還による支出 | △ 13,991,148 | △ 13,715,467 | △ 275,681 |
| 担保の返戻による支出 | △ 100,000 | 0 | △ 100,000 |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー（F）** | **△ 14,091,148** | **△ 13,715,467** | **△ 375,681** |
| **資金増減額　（G）＝（D）＋（E）＋（F）** | **△ 225,513,868** | **△ 10,431,453** | **△ 215,082,415** |
| **資金期首残高　（H）** | **2,310,676,992** | **2,321,108,445** | **△ 10,431,453** |
| **資金期末残高　（I）＝（G）＋（H）** | **2,085,163,124** | **2,310,676,992** | **△ 225,513,868** |

## 7　むすび

令和７年度の業務実績をみると、給水人口は 71,258 人で、前年度と比べて 144 人減少した。また年間有収水量は 7,653,599 ㎥で、前年度と比べて 7,656 ㎥減少し、年間有収率は 95.7％となっている。

経営成績をみると、消費税及び地方消費税を除く水道事業収益は 1,679,570 千円、水道事業費用は 1,674,744 千円で、損益収支の 4,826 千円を当年度純利益に計上しているが、営業収益から営業費用を差し引いた営業収支は 469,072 千円の赤字であり、依然として費用を収益で賄えていない。

また事業運営の基本となる給水原価と供給単価との関係では、給水原価は 184 円 86 銭、供給単価は 138 円 15 銭で、供給単価を上回る 46 円 71 銭の差損が生じている。この単価差は、京田辺市水道事業料金調整基金で補てんしている。

次に財政状態をみると、経常収支比率は 100.51％で、前年度と比べて 0.03 ポイント低下した。流動比率は 613.42％で、前年度と比べて 84.00 ポイント低下した。経常収支比率については基準値の 100％を超えているが、基金からの補てんにより収支均衡が図られた状態にあるといえる。

今後も給水収益の増加は見込みにくく、料金調整基金残高の減少や物価高騰等の影響もあり、水道事業を取り巻く環境が厳しい状況にあるが、水道事業の広域化の動向も注視しながら、当初の基本理念である「未来へうけつぐ故郷の水」を継承するとともに、「京田辺市水道ビジョン」及び「京田辺市水道事業経営戦略」に基づき、安全、強靭及び持続の３つの目標の下、実施施策を着実に推進するとともに、さらなる経営の安定化・健全化に努めていただきたい。

# 京田辺市公共下水道事業会計

1　業務実績

（1）業務量の状況

当年度の年間総処理水量は 9,898,811 ㎥で、前年度と比べて 164,826 ㎥(1.6%)減少している。

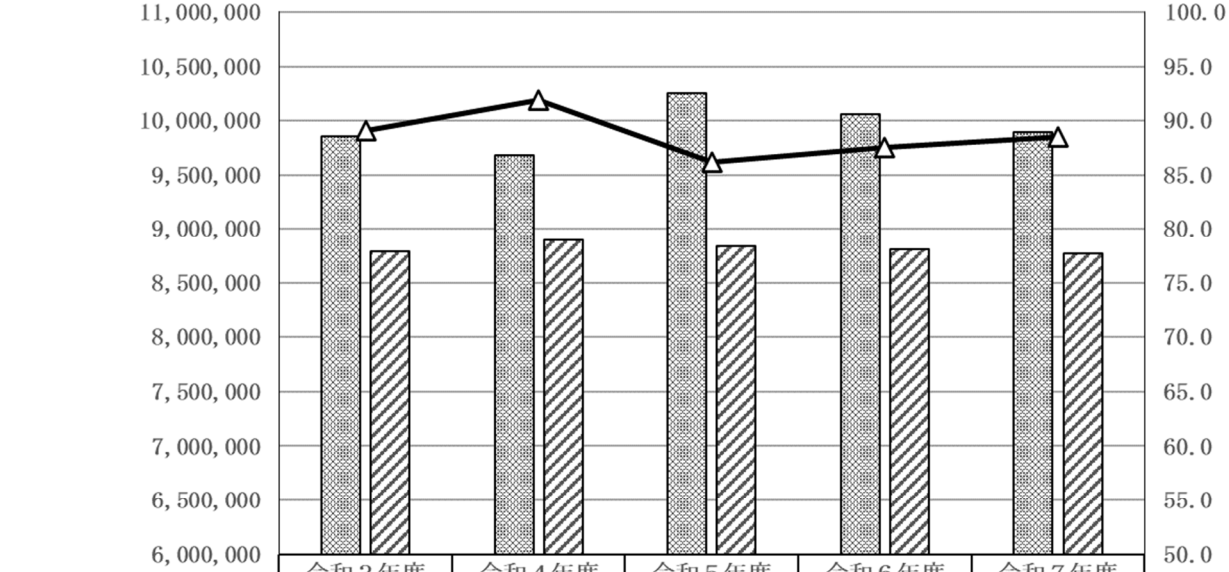
また、年間有収水量は 8,764,566 ㎥で、前年度と比べて 40,011 ㎥(0.5%)減少しており、有収率は 88.5%で、前年度と比べて 1.0 ポイント上昇している。

なお、当年度の処理区域内人口は 70,732 人で、前年度と比べて 28 人(0.04%)減少し、人口普及率は 98.8%で、前年度と比べて 0.1 ポイント上昇している。

［主 な 業 務 量 の 推 移］

| 区　　分 | 単位 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 年間総処理水量 | ㎥ | 9,859,261 | 9,678,372 | 10,248,046 | 10,063,637 | 9,898,811 |
| 年間有収水量 | ㎥ | 8,787,416 | 8,891,963 | 8,837,443 | 8,804,577 | 8,764,566 |
| 有収率 | % | 89.1 | 91.9 | 86.2 | 87.5 | 88.5 |
| 行政区域内人口 | 人 | 70,756 | 71,558 | 71,579 | 71,673 | 71,569 |
| 処理区域内人口 | 人 | 69,801 | 70,640 | 70,673 | 70,760 | 70,732 |
| 処理区域内面積 | ha | 1,212.71 | 1,213.91 | 1,215.46 | 1,225.86 | 1,226.11 |
| 水洗化人口 | 人 | 67,815 | 68,663 | 68,774 | 68,917 | 68,896 |
| 人口普及率 | % | 98.7 | 98.7 | 98.7 | 98.7 | 98.8 |
| 水洗化率 | % | 97.2 | 97.2 | 97.3 | 97.4 | 97.4 |

［年間総処理水量と年間有収水量の推移］




| | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 年間総処理水量(㎥) | 9,859,261 | 9,678,372 | 10,248,046 | 10,063,637 | 9,898,811 |
| 年間有収水量　(㎥) | 8,787,416 | 8,891,963 | 8,837,443 | 8,804,577 | 8,764,566 |
| 有収率(%) | 89.1 | 91.9 | 86.2 | 87.5 | 88.5 |

（２）水洗化の状況

水洗化人口は 68,896 人で、前年度と比べて 21 人(0.03%)減少している。

なお、水洗化率は前年度と変わらず 97.4%である。

（３）職員数

当年度末の職員数は８人で、前年度と比べて１人減少した。

**[職員数の推移(各年度末現在)]**

（単位：人）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 下　水　道　課 | 8 | 9 | 9 | 9 | 8 |
| 計 | 8 | 9 | 9 | 9 | 8 |

（４）建設改良事業

当年度の建設改良費は 210,833 千円である。事業の内容は、管路建設関係では、公共下水道ストックマネジメント計画見直し業務委託、公共下水道全体計画及び事業計画見直し等業務委託をはじめ、公共下水道三山木見尊田地区汚水管布設工事などが行われている。

**[建 設 改 良 費 の 推 移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 建 設 改 良 費 | 339,288 | 209,298 | 203,763 | 166,633 | 210,833 |

## 2　予算執行

### （1）収益的収入及び支出（税込み）

当年度の収益的収入及び収益的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

**［収　益　的　収　入］**

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 下水道事業収益 | 1,891,000 | 1,709,925 | △ 181,075 | 90.4 | 1,746,080 |
| 営　業　収　益 | 1,150,432 | 1,119,689 | △ 30,743 | 97.3 | 1,126,719 |
| 営業外収益 | 740,566 | 589,768 | △ 150,798 | 79.6 | 618,266 |
| 特　別　利　益 | 2 | 468 | 466 | 23,422.3 | 1,095 |

収益的収入の決算額は1,709,925千円で、前年度と比べて36,155千円減少している。予算額1,891,000千円に対して181,075千円下回っており、収入率は90.4％である。

**［収　益　的　支　出］**

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 地方公営企業法第26条第2項ただし書の規定による繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 下水道事業費用 | 1,891,000 | 1,739,252 | 0 | 151,748 | 92.0 | 1,781,863 |
| 営　業　費　用 | 1,724,788 | 1,578,192 | 0 | 146,596 | 91.5 | 1,607,324 |
| 営業外費用 | 162,249 | 158,696 | 0 | 3,553 | 97.8 | 174,068 |
| 特　別　損　失 | 2,463 | 2,363 | 0 | 100 | 96.0 | 472 |
| 予　　備　　費 | 1,500 | 0 | 0 | 1,500 | 0.0 | 0 |

収益的支出の決算額は1,739,252千円で、前年度と比べて42,611千円減少している。予算額1,891,000千円に対する執行率は92.0％で、翌年度への繰越額はない。

なお、収益的収入の決算額から収益的支出の決算額を差し引いた収益的収支差引額は、△29,326千円である。

（２）資本的収入及び支出（税込み）

当年度の資本的収入及び資本的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

［資　本　的　収　入］

（単位：千円、％）

| 区　分 | 予算額 | 決算額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前年度決算額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資本的収入 | 881,000 | 647,300 | △ 233,700 | 73.5 | 683,152 |
| 企業債 | 287,200 | 118,900 | △ 168,300 | 41.4 | 121,100 |
| 他会計借入金 | 107,360 | 0 | △ 107,360 | － | 0 |
| 固定資産売却代金 | 0 | 2 | 2 | 皆増 | 2 |
| 国庫補助金 | 72,000 | 13,000 | △ 59,000 | 18.1 | 20,350 |
| 他会計補助金 | 402,903 | 510,147 | 107,244 | 126.6 | 541,700 |
| その他資本的収入 | 11,537 | 5,251 | △ 6,286 | 45.5 | 0 |

資本的収入の決算額は647,300千円で、前年度と比べて35,852千円減少している。予算額881,000千円に対して233,700千円下回っており、収入率は73.5％である。

［資　本　的　支　出］

（単位：千円、％）

| 区　分 | 予算額 | 決算額 | 地方公営企業法第26条の規定による繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前年度決算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 資本的支出 | 1,196,000 | 938,972 | 112,000 | 145,028 | 78.5 | 926,097 |
| 建設改良費 | 466,685 | 210,833 | 112,000 | 143,852 | 45.2 | 166,633 |
| 企業債償還金 | 674,815 | 673,638 | 0 | 1,177 | 99.8 | 729,964 |
| 他会計借入金償還金 | 54,500 | 54,500 | 0 | 0 | 100.0 | 29,500 |

資本的支出の決算額は938,972千円で、前年度と比べて12,875千円増加している。予算額1,196,000千円に対する執行率は78.5％である。翌年度繰越額は、112,000千円で公共下水道田辺北土地区画整理事業区域外（第１工区）汚水管布設工事に係るものである。

なお、資本的収入の決算額が資本的支出の決算額に対して不足する額 291,672 千円は、次の財源により補てんされている。

・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額　15,916,458 円

・過年度分損益勘定留保資金　275,755,350 円

## 3　経営成績

### （1）経営成績の概要

損益計算書を当年度と前年度で比較したものは、次表のとおりである。

**［損 益 計 算 書 比 較 表］**

（単位：円、％）

| 科目 | 金額（税抜き） | | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|
| | 令和７年度 | 令和６年度 | 増減額 | 増減率 |
| 営業収益 | 1,018,038,991 | 1,024,556,001 | △ 6,517,010 | △ 0.6 |
| 下水道使用料 | 1,017,055,469 | 1,022,181,283 | △ 5,125,814 | △ 0.5 |
| 浄化槽事務委託負担金 | 31,122 | 1,148,118 | △ 1,116,996 | △ 97.3 |
| その他の営業収益 | 952,400 | 1,226,600 | △ 274,200 | △ 22.4 |
| 営業費用 | 1,517,416,019 | 1,544,740,584 | △ 27,324,565 | △ 1.8 |
| 管渠費 | 38,071,537 | 44,573,726 | △ 6,502,189 | △ 14.6 |
| 浄化槽費 | 20,400 | 1,119,000 | △ 1,098,600 | △ 98.2 |
| 総係費 | 84,348,717 | 94,571,214 | △ 10,222,497 | △ 10.8 |
| 流域下水道費 | 531,483,336 | 539,050,992 | △ 7,567,656 | △ 1.4 |
| 減価償却費 | 862,987,701 | 865,425,652 | △ 2,437,951 | △ 0.3 |
| 資産減耗費 | 504,328 | 0 | 504,328 | 皆増 |
| 営業利益（△損失） | △ 499,377,028 | △ 520,184,583 | 20,807,555 | 4.0 |
| 営業外収益 | 589,768,052 | 618,266,322 | △ 28,498,270 | △ 4.6 |
| 受取利息及び配当金 | 568,000 | 0 | 568,000 | 皆増 |
| 他会計補助金 | 41,955,000 | 43,262,000 | △ 1,307,000 | △ 3.0 |
| 長期前受金戻入 | 547,205,891 | 574,978,143 | △ 27,772,252 | △ 4.8 |
| 引当金戻入益 | 5,658 | 25,978 | △ 20,320 | △ 78.2 |
| 雑収益 | 33,503 | 201 | 33,302 | 16,568.2 |
| 営業外費用 | 87,729,342 | 98,073,918 | △ 10,344,576 | △ 10.5 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 86,531,343 | 97,032,828 | △ 10,501,485 | △ 10.8 |
| 雑支出 | 1,197,999 | 1,041,090 | 156,909 | 15.1 |
| 経常利益（△損失） | 2,661,682 | 7,821 | 2,653,861 | 33,932.5 |
| 特別利益 | 425,875 | 995,114 | △ 569,239 | △ 57.2 |
| 固定資産売却益 | 3,165 | 2,875 | 290 | 10.1 |
| 過年度損益修正益 | 422,710 | 992,239 | △ 569,529 | △ 57.4 |
| 特別損失 | 2,158,047 | 429,005 | 1,729,042 | 403.0 |
| 過年度損益修正損 | 2,158,047 | 429,005 | 1,729,042 | 403.0 |
| その他特別損失 | 0 | 0 | 0 | － |
| 当年度純利益（△損失） | 929,510 | 573,930 | 355,580 | 62.0 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 26,250,432 | 25,676,502 | 573,930 | 2.2 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 27,179,942 | 26,250,432 | 929,510 | 3.5 |

ア　営業収益

営業収益は 1,018,039 千円で、前年度と比べて 6,517 千円(0.6%)減少している。その主な要因は、下水道使用料が 5,126 千円(0.5%)減少したためである。

イ　営業費用

営業費用は 1,517,416 千円で、前年度と比べて 27,325 千円(1.8%)減少している。その主な要因は、管渠費が 6,502 千円(14.6%)、総係費が 10,222 千円(10.8%)、流域下水道費が 7,568 千円(1.4%)減少したためである。

ウ　営業利益（△損失）

営業収益から営業費用を差し引いた結果は、499,377 千円の大幅な営業損失であるが、前年度と比べて損失は 20,808 千円(4.0%)減少している。

エ　営業外収益・営業外費用

営業外収益は 589,768 千円で、前年度と比べて 28,498 千円(4.6%)減少している。その主な要因は、他会計補助金として収益勘定に係る一般会計補助金が 1,307 千円(3.0%)、長期前受金戻入が 27,772 千円(4.8%)減少したためである。

また、営業外費用は 87,729 千円で、前年度と比べて 10,345 千円(10.5%)減少している。その主な要因は、支払利息及び企業債取扱諸費が 10,501 千円(10.8%)減少したためである。

**[一般会計補助金(繰入金)の推移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一般会計補助金(繰入金) | 754,475 | 660,436 | 679,100 | 584,962 | 552,102 |
| 収　益　勘　定 | 151,375 | 36,436 | 36,000 | 43,262 | 41,955 |
| 資　本　勘　定 | 603,100 | 624,000 | 643,100 | 541,700 | 510,147 |

オ　経常利益（△損失）

営業損失に営業外収益及び営業外費用を加減した結果は、2,662 千円の経常利益となり、前年度と比べて利益は 2,654 千円(33,932.5%)増加している。

カ　特別利益・特別損失

特別利益は 426 千円で、前年度と比べて 569 千円(57.2%)減少しており、その主な要因は過年度損益修正益で、前年度と比べて 570 千円(57.4%)減少している。また、特別損失は 2,158 千円で、前年度と比べて 1,729 千円(403.0%)増加しており、その要因は過年度損益修正損が前年度と比べて 1,729 千円(403.0%)増加しているからである。

キ　当年度純利益（△損失）

経常利益に特別利益及び特別損失を加減した結果は、930 千円の当年度純利益となり、前年度と比べて 356 千円(62.0%)増加している。

ク　当年度未処分利益剰余金

前年度繰越利益剰余金に当年度純利益を加えた当年度未処分利益剰余金は 27,180 千円で、前年度と比べて 930 千円(3.5%)増加している。

なお、当年度において、利益剰余金の処分は行われていない。

ケ　損益状況

損益状況の 5 年間の推移は、次表のとおりである。

**[損益状況の推移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 営業収益 | 879,871 | 1,035,468 | 1,028,215 | 1,024,556 | 1,018,039 |
| 営業利益（△損失） | △ 659,850 | △ 458,759 | △ 474,320 | △ 520,185 | △ 499,377 |
| 経常利益 | 3,647 | 6,731 | 632 | 8 | 2,662 |
| 当年度純利益 | 2,030 | 87 | 114 | 574 | 930 |

コ　汚水処理原価、使用料単価及び経費回収率

汚水処理原価及び経費回収率は、次表のとおりである。

当年度公共下水道事業における有収水量 1 ㎥当たりの汚水処理原価は 108 円 24 銭で、前年度と比べて 97 銭減少し、使用料単価は 116 円 4 銭であり、前年度と比べて 6 銭減少している。なお、経費回収率は 107.21%である。

**[汚水処理原価、使用料単価及び経費回収率]**

（単位：円／㎥、%）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 汚水処理原価 | 104.27 | 108.33 | 108.54 | 109.21 | 108.24 |
| 使用料単価 | 99.96 | 116.32 | 116.17 | 116.10 | 116.04 |
| 経費回収率 | 95.86 | 107.37 | 107.03 | 106.30 | 107.21 |

（注）1　汚水処理原価＝汚水処理経費（公費負担分を除く）÷有収水量

2　経費回収率＝下水道使用料÷汚水処理費（公費負担分を除く）

## 4　財政状態

### （1）財政状態の概要

当年度末における資産合計及び負債資本合計は、それぞれ21,582,031千円で、前年度と比べて536,796千円(2.4%)減少している。

**[貸 借 対 照 表 比 較 表]**

（単位：千円、%）

| 区分 | | 令和7年度 金額（税抜き） | 令和7年度 構成比率 | 令和6年度 金額（税抜き） | 令和6年度 構成比率 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資産の部 | 固定資産 | 21,074,021 | 97.6 | 21,659,251 | 97.9 | △ 585,230 | △ 2.7 |
| | 有形固定資産 | 19,534,235 | 90.5 | 20,093,022 | 90.8 | △ 558,786 | △ 2.8 |
| | 無形固定資産 | 1,539,770 | 7.1 | 1,566,221 | 7.1 | △ 26,451 | △ 1.7 |
| | 投資 | 16 | 0.0 | 8 | 0.0 | 7 | 86.7 |
| | 流動資産 | 508,010 | 2.4 | 459,577 | 2.1 | 48,434 | 10.5 |
| | 現金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 預金 | 437,392 | 2.0 | 427,292 | 1.9 | 10,100 | 2.4 |
| | 営業未収金 | 34,216 | 0.2 | 28,903 | 0.1 | 5,313 | 18.4 |
| | 営業外未収金 | 0 | 0.0 | 3,582 | 0.0 | △ 3,582 | 皆減 |
| | その他未収金 | 0 | 0.0 | 49 | 0.0 | △ 49 | 皆減 |
| | 未収金貸倒引当金 | △ 238 | － | △ 250 | － | 12 | － |
| | 前払金 | 36,640 | 0.2 | 0 | 0.0 | 36,640 | 皆増 |
| | 資産合計 | 21,582,031 | 100.0 | 22,118,827 | 100.0 | △ 536,796 | △ 2.4 |
| 負債の部・資本の部 | 固定負債 | 5,960,491 | 27.6 | 6,570,311 | 29.7 | △ 609,821 | △ 9.3 |
| | 企業債 | 5,207,491 | 24.1 | 5,724,211 | 25.9 | △ 516,721 | △ 9.0 |
| | 他会計借入金 | 753,000 | 3.5 | 846,000 | 3.8 | △ 93,000 | △ 11.0 |
| | その他固定負債 | 0 | 0.0 | 100 | 0.0 | △ 100 | 皆減 |
| | 流動負債 | 832,023 | 3.9 | 778,340 | 3.5 | 53,683 | 6.9 |
| | 企業債 | 635,621 | 2.9 | 673,638 | 3.0 | △ 38,018 | △ 5.6 |
| | 他会計借入金 | 93,000 | 0.4 | 54,500 | 0.2 | 38,500 | 70.6 |
| | 営業未払金 | 34,599 | 0.2 | 27,305 | 0.1 | 7,294 | 26.7 |
| | 営業外未払金 | 14,390 | 0.1 | 14,658 | 0.1 | △ 267 | △ 1.8 |
| | その他未払金 | 38,127 | 0.2 | 2,088 | 0.0 | 36,039 | 1,726.1 |
| | 賞与引当金 | 5,211 | 0.0 | 5,023 | 0.0 | 188 | 3.7 |
| | 法定福利費引当金 | 1,042 | 0.0 | 993 | 0.0 | 49 | 4.9 |
| | その他流動負債 | 10,033 | 0.0 | 135 | 0.0 | 9,898 | 7,344.4 |
| | 繰延収益 | 14,714,465 | 68.2 | 14,701,304 | 66.5 | 13,161 | 0.1 |
| | 長期前受金 | 14,714,465 | 68.2 | 14,701,304 | 66.5 | 13,161 | 0.1 |
| | 負債合計 | 21,506,979 | 99.7 | 22,049,956 | 99.7 | △ 542,977 | △ 2.5 |
| | 資本金 | 1,460 | 0.0 | 1,460 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 資本金 | 1,460 | 0.0 | 1,460 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 剰余金 | 73,592 | 0.3 | 67,411 | 0.3 | 6,180 | 9.2 |
| | 資本剰余金 | 10,928 | 0.1 | 5,677 | 0.0 | 5,251 | 92.5 |
| | 利益剰余金 | 62,663 | 0.3 | 61,734 | 0.3 | 930 | 1.5 |
| | 資本合計 | 75,052 | 0.3 | 68,872 | 0.3 | 6,180 | 9.0 |
| | 負債資本合計 | 21,582,031 | 100.0 | 22,118,827 | 100.0 | △ 536,796 | △ 2.4 |

ア　資産

資産合計は 21,582,031 千円で、固定資産が 21,074,021 千円(有形固定資産 19,534,235 千円、無形固定資産 1,539,770 千円、投資 16 千円)、流動資産が 508,010 千円となっている。

固定資産は、前年度と比べて 585,230 千円(2.7%)減少している。その主な要因は、有形固定資産が 558,786 千円(2.8%)減少したためである。なお、有形固定資産の減少は、減価償却によるものである。

次に、流動資産は、前年度と比べて 48,434 千円(10.5%)増加している。その主な要因は、預金が 10,100 千円(2.4%)、前払金 36,640 千円(皆増)が増加したためである。

なお、下水道使用料収益などの未収金といった金銭債権の将来の貸倒れに備えて、回収することが困難と見込まれる額を費用とする未収金貸倒引当金は、238 千円を計上している。

また、未収金のうち下水道使用料等に係る営業未収金は 34,216 千円で前年度と比べて 5,313 千円(18.4%)増加している。適正な債権管理に努められたい。

イ　負債

負債は 21,506,979 千円(固定負債 5,960,491 千円、流動負債 832,023 千円、繰延収益 14,714,465 千円)で、前年度と比べて 542,977 千円(2.5%)減少している。

固定負債は、前年度と比べて 609,821 千円(9.3%)減少している。その主な要因は、企業債が 516,721 千円(9.0%)減少したためである。

流動負債は、前年度と比べて 53,683 千円(6.9%)増加している。その主な要因は、企業債が 38,018 千円(5.6%)減少したが、他会計借入金が 38,500 千円(70.6%)、その他未払金が 36,039 千円(1,726.1%)増加したためである。

繰延収益は、前年度と比べて 13,161 千円(0.1%)増加している。その要因は、長期前受金が 13,161 千円(0.1%)増加したためである。

**[企 業 債 残 高 等 の 推 移]**

(単位：円)

| 区　　分 | 借入高 | 償還高 | 年度末残高 |
|---|---|---|---|
| 令　和　3　年　度 | 237,500,000 | 790,787,901 | 8,186,835,567 |
| 令　和　4　年　度 | 145,100,000 | 754,968,859 | 7,576,966,708 |
| 令　和　5　年　度 | 158,300,000 | 728,552,713 | 7,006,713,995 |
| 令　和　6　年　度 | 121,100,000 | 729,964,220 | 6,397,849,775 |
| 令　和　7　年　度 | 118,900,000 | 673,638,413 | 5,843,111,362 |

ウ　資本

資本合計は 75,052 千円（資本金 1,460 千円、剰余金 73,592 千円）で、前年度と比べて 6,180 千円(9.0%)増加している。

資本金は前年度と比べて増減なく、剰余金は前年度と比べて 6,180 千円(9.2%)増加している。その主な要因は、資本剰余金が 5,251 千円(92.5%)増加したためである。

なお、令和７年度末残高の利益剰余金は 62,663 千円であり、うち未処分利益剰余金 27,180 千円を翌年度繰越としている。

## [資本金及び剰余金の変動]

（単位：千円）

| 区分 | 資本金 | 剰余金 | | | | | | | 資本合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 資本剰余金 | | | | 利益剰余金 | | | |
| | | 受贈財産評価額 | 補助金 | その他負担金 | 資本剰余金合計 | その他積立金 | 未処分利益剰余金 | 利益剰余金合計 | |
| 令和６年度末残高 | 1,460 | 0 | 5,677 | 0 | 5,677 | 35,483 | 26,250 | 61,734 | 68,872 |
| 令和６年度処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法令による処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減債積立金の積立て | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 1,460 | 0 | 5,677 | 0 | 5,677 | 35,483 | 26,250 | 61,734 | 68,872 |
| 令和７年度変動額 | 0 | 0 | 0 | 5,251 | 5,251 | 0 | 930 | 930 | 6,180 |
| 減債積立金からの組入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一般会計補助金からの受入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他積立金への振替 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 用地取得費用負担金の受入 | 0 | 0 | 0 | 5,251 | 5,251 | 0 | 0 | 0 | 5,251 |
| 令和７年度純利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 930 | 930 | 930 |
| 令和７年度末残高 | 1,460 | 0 | 5,677 | 5,251 | 10,928 | 35,483 | 27,180 | 62,663 | 75,052 |

## [剰余金処分計算書]

（単位：千円）

| 区分 | 資本金 | 資本剰余金 | 未処分利益剰余金 |
|---|---|---|---|
| 令和７年度末残高 | 1,460 | 10,928 | 27,180 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 当年度処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 1,460 | 10,928 | （翌年度繰越利益剰余金）<br>27,180 |

## 5　経営比較分析

総務省において、各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成される「経営比較分析表」が公表されている。

これは、各公営企業において、経営比較分析表を活用することにより、経年比較や類似団体との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することを可能とするためのものである。

指標の比較については、次表のとおりである。

**［経　営　比　較　分　析　表］**

| | 指　　標<br>(　)内は単位 | 算　出　式 | 令和<br>7年度 | 令和<br>6年度 | 類似団体平均<br>(令和6年度) |
|---|---|---|---|---|---|
| 経営の健全性・効率性 | ①経常収支比率<br>(%) | 経常収益 ／ 経常費用 ×100 | 100.17 | 100.00 | 106.65 |
| | ②累積欠損金比率<br>(%) | 当年度未処理欠損金 ／ 営業収益－受託工事収益 ×100 | 0.00 | 0.00 | 6.65 |
| | ③流動比率<br>(%) | 流動資産 ／ 流動負債 ×100 | 61.06 | 59.05 | 94.74 |
| | ④企業債残高対事業規模比率<br>(%) | 企業債現在高合計－一般会計負担額 ／ 営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金 ×100 | 520.95 | 562.07 | 635.88 |
| | ⑤経費回収率<br>(%) | 下水道使用料 ／ 汚水処理費（公費負担分を除く） ×100 | 107.21 | 106.30 | 93.49 |
| | ⑥汚水処理原価<br>(円) | 汚水処理費（公費負担分を除く） ／ 年間有収水量 ×100 | 108.24 | 109.21 | 141.68 |
| | ⑦施設利用率<br>(%) | 晴天時一日平均処理水量 ／ 晴天時現在処理能力 ×100 | － | － | 62.51 |
| | ⑧水洗化率<br>(%) | 現在水洗便所設置済人口 ／ 現在処理区域内人口 ×100 | 97.40 | 97.40 | 94.61 |
| 老朽化の状況 | ⑨有形固定資産減価償却率<br>(%) | 有形固定資産減価償却累計額 ／ 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価 ×100 | 23.39 | 20.57 | 32.23 |
| | ⑩管渠老朽化率<br>(%) | 法定耐用年数を経過した管渠延長 ／ 下水道布設延長 ×100 | 0.86 | 0.86 | 4.25 |
| | ⑪管渠改善率<br>(%) | 改善（更新・改良・維持）管渠延長 ／ 下水道布設延長 ×100 | 0.00 | 0.00 | 0.07 |

（注）令和７年度決算に係る経営比較分析表は現時点では未公表であるため、令和７年度の数値は決算審査資料の数値を採用している。

### ①　経常収支比率　「経常損益」

経常収支比率は、料金収入や他会計補助金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。

令和７年度の経常収支比率は 100.17%であったが、これは他会計補助金によるものであり、100%を大きく上回らない状況で推移している。

### ②　累積欠損金比率　「累積欠損」

営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越

利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した欠損金のこと)の状況を表す指標で、累積欠損金が発生していないことを示す 0%であることが求められる。

本市は、累積欠損金が発生していないため、0%で推移している。

③　流動比率　「支払能力」

短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1 年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す 100%以上であることが必要である。

令和７年度の流動比率は 61.06%と低い比率となっており、一般的に 100%を下回るということは、1 年以内に現金化できる資産で 1 年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。

④　企業債残高対事業規模比率　「債務残高」

料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和７年度の企業債残高対事業規模比率は 520.95%であり、事業整備の完了に伴い企業債残高のピークは過ぎているものの、依然として経営上の大きな負担となっている。

⑤　経費回収率　「料金水準の適切性」

使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標で 100%を下回っている場合、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることを意味するため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減が必要である。

令和７年度の経費回収率は 107.21%であり、令和３年７月から施行した新料金による下水道使用料の増加により、100%を越えて推移している。

⑥　汚水処理原価　「費用の効率性」

有収水量 1 ㎥当たりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経営状況や類似団体平均との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

本市は、流域下水道により汚水処理を効率的に行っていることから、令和７年度の汚水処理原価は 108 円 24 銭と処理原価を類似団体平均よりも安価に賄えてい

る。

⑦　施設利用率　「施設の効率性」

施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標として明確な数値基準はないと考えられているが、一般的には高い数値であることが望まれる。

本市は、流域で処理しているため、施設利用率は該当がない。

⑧　水洗化率　「使用料対象の捕捉」

現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標である。

令和７年度の水洗化率は 97.40％であり、類似団体平均以上の数値である。

⑨　有形固定資産減価償却率　「施設全体の減価償却の状況」

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体平均との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。一般的には、数値が高いほど保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。

令和７年度の有形固定資産減価償却率は 23.39％であり、類似団体平均以下の数値である。

⑩　管渠老朽化率　「管渠の経年化の状況」

法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表す指標で、管渠の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和７年度の管渠老朽化率は 0.86％であり、類似団体平均以下の数値である。

⑪　管渠改善率　「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

当該年度に更新した管渠延長の割合を表す指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できる。明確な数値基準はないと考えられているが、数値が 0.5％の場合、すべての管路を更新するのに 200 年かかる更新ペースであることが把握できる。

令和７年度の管渠改善率は 0.00％であり、今後もストックマネジメント計画に基づく計画的な下水道管路の改築更新を進めていく必要がある。

6　キャッシュ・フロー

このキャッシュ・フロー計算書は、キャッシュ・フローを業務活動、投資活動及び財務活動の三つに区分して表示し、一事業年度の資金収支合計を表示している。

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表している。また、投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の購入、売却等によるもので、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表している。計画的に建設改良等を行っていれば、通常はマイナスとなる。さらに、財務活動によるキャッシュ・フローは、業務活動及び投資活動を行うための資金調達や返済の財務活動に係る資金の状態を表している。

当年度のキャッシュ・フロー計算書は、前年度と比べて次表のとおりである。

# ［キャッシュ・フロー計算書比較表］

（単位：円）

| 区　　分 | 令和７年度（税抜き） | 令和６年度（税抜き） | 増減額 |
|---|---|---|---|
| **１　業務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 当年度純利益（△は純損失） | 929,510 | 573,930 | 355,580 |
| 減価償却費 | 862,987,701 | 865,425,652 | △ 2,437,951 |
| 長期前受金戻入額 | △ 547,205,891 | △ 574,978,143 | 27,772,252 |
| 固定資産除却費 | 504,328 | 0 | 504,328 |
| 固定資産売却益 | △ 3,165 | △ 2,875 | △ 290 |
| 受取利息 | △ 568,000 | 0 | △ 568,000 |
| 支払利息 | 86,531,343 | 97,032,828 | △ 10,501,485 |
| 未収金の増減額（△は増額） | △ 1,681,264 | △ 8,191,481 | 6,510,217 |
| 貸倒引当金の増減額（△は減額） | △ 12,113 | 122,417 | △ 134,530 |
| 賞与引当金の増減額（△は減額） | 237,000 | 808,000 | △ 571,000 |
| 資本的支出分賞与引当金の増減額（△は増額） | 45,000 | △ 119,000 | 164,000 |
| 営業未払金の増減額（△は減額） | 7,293,969 | △ 22,363,772 | 29,657,741 |
| 営業外未払金の増減額（△は減額） | △ 267,200 | △ 7,063,153 | 6,795,953 |
| その他流動負債の増減額（△は減額） | 9,898,083 | 22,817 | 9,875,266 |
| **小計　（A）** | 418,689,301 | 351,267,220 | 67,422,081 |
| **受取利息　（B）** | 568,000 | 0 | 568,000 |
| **利息の支払額　（C）** | △ 86,531,343 | △ 97,032,828 | 10,501,485 |
| **業務活動によるキャッシュ・フロー　（D）＝（A）＋（B）＋（C）** | **332,725,958** | **254,234,392** | **78,491,566** |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **２　投資活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 建設改良費（預託金を除く） | △ 194,909,442 | △ 153,330,150 | △ 41,579,292 |
| 預託金による支出 | △ 7,230 | △ 8,340 | 1,110 |
| 固定資産売却収入 | 5,000 | 5,000 | 0 |
| 前払金の増減額（△は増額） | △ 36,640,000 | 0 | △ 36,640,000 |
| 建設工事等未払金の増減額（△は減額） | 36,038,804 | △ 43,717,083 | 79,755,887 |
| その他負担金の収入 | 5,250,900 | 0 | 5,250,900 |
| 国庫補助金の収入 | 13,000,000 | 20,350,000 | △ 7,350,000 |
| 他会計補助金の収入 | 510,147,000 | 541,700,000 | △ 31,553,000 |
| 資本的収支特定収入消費税の圧縮記帳分 | △ 46,172,363 | △ 49,651,454 | 3,479,091 |
| 有価証券の取得による支出 | △ 399,432,000 | 0 | △ 399,432,000 |
| 有価証券の取得による収入 | 399,432,000 | 0 | 399,432,000 |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー　（E）** | **286,712,669** | **315,347,973** | **△ 28,635,304** |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **３　財務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 企業債の借入による収入 | 118,900,000 | 121,100,000 | △ 2,200,000 |
| 企業債の償還による支出 | △ 673,638,413 | △ 729,964,220 | 56,325,807 |
| 長期借入金の借入による収入 | 0 | 0 | 0 |
| 長期借入金の償還による支出 | △ 54,500,000 | △ 29,500,000 | △ 25,000,000 |
| 担保の返戻による支出 | △ 100,000 | 0 | △ 100,000 |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー　（F）** | **△ 609,338,413** | **△ 638,364,220** | **29,025,807** |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **資金増減額　（G）＝（D）＋（E）＋（F）** | **10,100,214** | **△ 68,781,855** | **78,882,069** |
| **資金期首残高　（H）** | **427,291,702** | **496,073,557** | **△ 68,781,855** |
| **資金期末残高　（I）＝（G）＋（H）** | **437,391,916** | **427,291,702** | **10,100,214** |

## 7　むすび

令和７年度の業務実績をみると、処理区域内人口は 70,732 人で、前年度と比べて 28 人減少した。また、人口普及率は 98.8％で前年度と比べて 0.1 ポイント上昇したが、水洗化率は 97.4％で前年度と変わりはなかった。年間総処理水量は 9,898,811 ㎥で、前年度と比べて 164,826 ㎥減少し、年間有収水量は 8,764,566 ㎥で、前年度と比べて 40,011 ㎥減少したが、年間有収率は 88.5％で、前年度と比べて 1.0 ポイント上昇となっている。年間総処理水量と年間有収水量の差は、不明水によるものと推察される。不明水は管更生が進めば減少していくと考えられることから、今後もストックマネジメント計画に基づき、不明水等の発生場所を特定し、有効な対策を実施されたい。

経営成績をみると、消費税及び地方消費税を除く下水道事業収益は 1,608,233 千円、下水道事業費用は 1,607,303 千円で、損益収支の 930 千円を当年度純利益に計上したが、営業収益から営業費用を差し引いた営業収支は 499,377 千円の大きな赤字であり、依然として費用を収益で賄えていない。

事業運営の基本となる汚水処理原価と使用料単価との関係では、汚水処理原価は 108 円 24 銭、使用料単価は 116 円 4 銭で、汚水処理原価を上回る 7 円 80 銭の差益が生じている。事業運営の基本となる汚水処理費用をどの程度使用料で賄えているかを表す指標である経費回収率は 107.21％であった。

次に財政状態をみると、経常収支比率は 100.17％で、前年度と比べて 0.17 ポイント上昇した。流動比率は 61.06％で、前年度と比べて 2.01 ポイント上昇し、基準値の 100％に向けて改善がみられた。

しかしながら、企業債の残高が非常に多く、企業債の償還に多額の費用が必要となるため、依然として他会計補助金で赤字を補てんしている状況であり、厳しい財政状態にあるといえる。

公共下水道事業を取り巻く経営環境は、物価高騰等の影響もあり非常に厳しい状況にあるが、「京田辺市下水道ビジョン」及び「京田辺市下水道事業経営戦略」に基づき、公衆衛生の向上や公共水域における水質保全など市民の身近な生活を守る重要インフラとして、持続可能な下水道事業の運営に努めていただきたい。

# 京田辺市農業集落排水事業会計

1　業務実績

（1）業務量の状況

農業集落排水事業は、平成18年度において整備が終了しており、管渠整備延長は9,710m(打田地区2,898m、天王地区5,157m、高船地区1,655m)となっている。

また、区域面積は18.0ha(打田地区5.9ha、天王地区7.4ha、高船地区4.7ha)となっている。

当年度末の区域内人口は479人で、前年度と比べて17人(3.4%)減少している。

また、年間処理水量は42,977㎥で、前年度と比べて333㎥(0.8%)減少している。

［主 な 業 務 量 の 推 移］

| 区　　分 | 単位 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 管渠整備延長 | m | 9,710 | 9,710 | 9,710 | 9,710 | 9,710 |
| うち、打田地区 | | 2,898 | 2,898 | 2,898 | 2,898 | 2,898 |
| うち、天王地区 | | 5,157 | 5,157 | 5,157 | 5,157 | 5,157 |
| うち、高船地区 | | 1,655 | 1,655 | 1,655 | 1,655 | 1,655 |
| 区域面積 | ha | 18.0 | 18.0 | 18.0 | 18.0 | 18.0 |
| うち、打田地区 | | 5.9 | 5.9 | 5.9 | 5.9 | 5.9 |
| うち、天王地区 | | 7.4 | 7.4 | 7.4 | 7.4 | 7.4 |
| うち、高船地区 | | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 4.7 |
| 区域内人口(世帯数) | 人(世帯) | 543(190) | 532(188) | 521(193) | 496(186) | 479(184) |
| うち、打田地区 | | 213(78) | 208(78) | 208(82) | 199(78) | 190(78) |
| うち、天王地区 | | 226(79) | 218(77) | 215(78) | 203(75) | 193(75) |
| うち、高船地区 | | 104(33) | 106(33) | 98(33) | 94(33) | 96(31) |
| 水洗化人口(世帯数) | 人(世帯) | 522(185) | 514(183) | 504(188) | 478(181) | 462(179) |
| うち、打田地区 | | 201(77) | 197(77) | 200(81) | 188(77) | 180(77) |
| うち、天王地区 | | 217(75) | 211(73) | 206(74) | 196(71) | 186(71) |
| うち、高船地区 | | 104(33) | 106(33) | 98(33) | 94(33) | 96(31) |
| 人口普及率 | % | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 水洗化率 | % | 96.1 | 96.6 | 96.7 | 96.4 | 96.5 |
| 処理水量 | ㎥/年 | 46,849 | 45,777 | 44,257 | 43,310 | 42,977 |

（2）水洗化の状況

当年度末の人口普及率は100%で、水洗化率は96.5%となっている。

（3）職員数

当年度末の職員数は、1人である。

**[職員数の推移(各年度末現在)]**

（単位：人）

| 区　　分 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 下　水　道　課 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

（注）1　再任用短時間勤務職員を含む。ただし、会計年度任用職員は含まない。
　　2　部長は水道事業会計で計上

（4）建設改良事業

当年度の建設改良費は、0円である。

**[建 設 改 良 費 の 推 移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 建 設 改 良 費 | 0 | 0 | 9,900 | 1,455 | 0 |

2　予算執行

（1）収益的収入及び支出

当年度の収益的収入及び収益的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

［収　益　的　収　入］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 下水道事業収益 | 94,000 | 67,654 | △ 26,346 | 72.0 | 74,224 |
| 営　業　収　益 | 9,784 | 9,560 | △ 224 | 97.7 | 9,786 |
| 営業外収益 | 84,216 | 58,094 | △ 26,122 | 69.0 | 64,438 |

収益的収入の決算額は 67,654 千円で、前年度と比べて 6,570 千円減少している。予算額 94,000 千円に対して 26,346 千円下回っており、収入率は 72.0％である。

［収　益　的　支　出］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 地方公営企業法第26条第2項ただし書の規定による繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 下水道事業費用 | 94,000 | 70,216 | 0 | 23,784 | 74.7 | 76,520 |
| 営　業　費　用 | 87,930 | 64,499 | 0 | 23,431 | 73.4 | 70,035 |
| 営業外費用 | 5,970 | 5,718 | 0 | 252 | 95.8 | 6,485 |
| 予　備　費 | 100 | 0 | 0 | 100 | 0.0 | 0 |

収益的支出の決算額は 70,216 千円で、前年度と比べて 6,304 千円減少している。予算額 94,000 千円に対する執行率は 74.7％で、翌年度への繰越額はない。

なお、収益的収入の決算額から収益的支出の決算額を差し引いた収益的収支差引額は、△2,562 千円である。

（２）資本的収入及び支出

当年度の資本的収入及び資本的支出の予算執行状況は、次表のとおりである。

［資　本　的　収　入］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資　本　的　収　入 | 10,000 | 36,000 | 26,000 | 360.0 | 32,000 |
| 他会計補助金 | 10,000 | 36,000 | 26,000 | 360.0 | 32,000 |

資本的収入の決算額は 36,000 千円で、前年度と比べて 4,000 千円増加している。予算額 10,000 千円に対し 26,000 千円上回っており、収入率は 360.0％である。

［資　本　的　支　出］

（単位：千円、％）

| 区　　分 | 予　算　額 | 決　算　額 | 地方公営企業法第26条の規定による繰越額 | 不用額 | 執行率 | 前　年　度決　算　額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 資　本　的　支　出 | 21,000 | 20,525 | 0 | 475 | 97.7 | 24,753 |
| 建　設　改　良　費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 1,455 |
| 企　業　債　償　還　金 | 21,000 | 20,525 | 0 | 475 | 97.7 | 23,298 |

資本的支出の決算額は 20,525 千円で、前年度と比べて 4,229 千円減少している。予算額 21,000 千円に対する執行率は 97.7％で、翌年度への繰越額はない。

なお、資本的収入の決算額から資本的支出の決算額を差し引いた資本的収支差引額は、15,475 千円である。

## ３　経営成績

### （１）経営成績の概要

損益計算書を当年度と前年度で比較したものは、次表のとおりである。

**［損 益 計 算 書 比 較 表］**

（単位：円、％）

| 科目 | | 金額（税抜き） | | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 令和７年度 | 令和６年度 | 増減額 | 増減率 |
| 営業収益 | | 8,690,822 | 8,896,550 | △ 205,728 | △ 2.3 |
| | 農業集落排水使用料 | 8,690,822 | 8,896,550 | △ 205,728 | △ 2.3 |
| 営業費用 | | 62,479,539 | 67,439,150 | △ 4,959,611 | △ 7.4 |
| | 処理場費 | 30,971,749 | 35,995,967 | △ 5,024,218 | △ 14.0 |
| | 減価償却費 | 31,507,790 | 31,443,183 | 64,607 | 0.2 |
| | 資産減耗費 | 0 | 0 | 0 | － |
| 営業利益（△損失） | | △ 53,788,717 | △ 58,542,600 | 4,753,883 | 8.1 |
| 営業外収益 | | 58,094,486 | 64,438,057 | △ 6,343,571 | △ 9.8 |
| | 他会計補助金 | 37,917,000 | 44,412,000 | △ 6,495,000 | △ 14.6 |
| | 長期前受金戻入 | 20,171,439 | 20,019,941 | 151,498 | 0.8 |
| | 雑収益 | 6,047 | 6,116 | △ 69 | △ 1.1 |
| 営業外費用 | | 3,594,975 | 5,414,367 | △ 1,819,392 | △ 33.6 |
| | 支払利息及び企業債取扱諸費 | 1,968,702 | 2,415,368 | △ 446,666 | △ 18.5 |
| | 雑支出 | 1,626,273 | 2,998,999 | △ 1,372,726 | △ 45.8 |
| 経常利益（△損失） | | 710,794 | 481,090 | 229,704 | 47.7 |
| 当年度純利益（△損失） | | 710,794 | 481,090 | 229,704 | 47.7 |
| 前年度繰越利益剰余金 | | 4,388,416 | 3,907,326 | 481,090 | 12.3 |
| 当年度未処分利益剰余金 | | 5,099,210 | 4,388,416 | 710,794 | 16.2 |

ア　営業収益・営業費用

営業収益は 8,691 千円で、前年度と比べて 206 千円(2.3%)減少している。その要因は、農業集落排水使用料が 206 千円(2.3%)減少したためである。

営業費用は 62,480 千円で、前年度と比べて 4,960 千円(7.4%)減少している。その主な要因は、処理場費が 5,024 千円(14.0%)減少したためである。

イ　営業利益（△損失）

営業収益から営業費用を差し引いた結果は、53,789 千円の営業損失となり、前年度と比べて損失は 4,754 千円(8.1%)減少している。

ウ　営業外収益・営業外費用

営業外収益は 58,094 千円で、前年度と比べて 6,344 千円(9.8%)減少している。その主な要因は、長期前受金戻入が 151 千円（0.8%）増加したものの、他会計補助金が 6,495 千円(14.6%)減少したためである。

営業外費用は 3,595 千円で、前年度と比べて 1,819 千円(33.6%)減少している。その主な要因は、雑支出が 1,373 千円（45.8%）減少したためである。

**[一般会計補助金(繰入金)の推移]**

（単位：千円）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一般会計補助金(繰入金) | 63,653 | 67,951 | 83,677 | 76,412 | 73,917 |
| 収益勘定 | 31,453 | 42,151 | 41,677 | 44,412 | 37,917 |
| 資本勘定 | 32,200 | 25,800 | 42,000 | 32,000 | 36,000 |

エ　経常利益（△損失）

営業損失に営業外収益及び営業外費用を加減した結果は、711 千円の経常利益となり、前年度と比べて 230 千円(47.7%)増加している。

オ　当年度純利益（△損失）

当年度純利益は 711 千円となり、前年度と比べて 230 千円(47.7%)増加している。

カ　当年度未処分利益剰余金

前年度繰越利益剰余金に当年度純利益を加えた当年度未処分利益剰余金は 5,099 千円で、前年度と比べて 711 千円(16.2%)増加している。

なお、当年度において、利益剰余金の処分は行われていない。

キ　汚水処理原価、使用料単価及び経費回収率

汚水処理原価、使用料単価及び経費回収率は、次表のとおりである。

当年度農業集落排水事業における有収水量 1 ㎥当たりの汚水処理原価は 758 円 50 銭で、前年度と比べて 149 円 49 銭減少し、使用料単価は 202 円 22 銭であり、前年度と比べて 3 円 20 銭減少している。使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを表した経費回収率は 26.66%である。

**[汚水処理原価、使用料単価及び経費回収率]**

（単位：円／㎥、%）

| 区　　分 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 汚水処理原価 | 554.70 | 700.40 | 805.23 | 907.99 | 758.50 |
| 使用料単価 | 215.04 | 196.46 | 203.91 | 205.42 | 202.22 |
| 経費回収率 | 38.77 | 28.05 | 25.32 | 22.62 | 26.66 |

（注）１　汚水処理原価＝汚水処理経費（公費負担分を除く）÷有収水量

２　経費回収率＝下水道使用料÷汚水処理費（公費負担分を除く）

4　財政状態

（1）財政状態の概要

当年度末における資産合計及び負債資本合計は、それぞれ 759,341 千円で、前年度と比べて 3,660 千円(0.5%)減少している。

［貸 借 対 照 表 比 較 表］

（単位：千円、%）

| 区分 | | 令和７年度 | | 令和６年度 | | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額（税抜き） | 構成比率 | 金額（税抜き） | 構成比率 | 増減額 | 増減率 |
| 資産の部 | 固定資産 | 634,727 | 83.6 | 666,235 | 87.3 | △ 31,508 | △ 4.7 |
| | 有形固定資産 | 634,720 | 83.6 | 666,228 | 87.3 | △ 31,508 | △ 4.7 |
| | 投資 | 7 | 0.0 | 7 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 流動資産 | 124,613 | 16.4 | 96,766 | 12.7 | 27,847 | 28.8 |
| | 現金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 預金 | 123,020 | 16.2 | 95,135 | 12.5 | 27,885 | 29.3 |
| | 営業未収金 | 1,593 | 0.2 | 1,631 | 0.2 | △ 37 | △ 2.3 |
| | 営業外未収金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | その他未収金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 未収金貸倒引当金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 資産合計 | 759,341 | 100.0 | 763,001 | 100.0 | △ 3,660 | △ 0.5 |
| 負債の部・資本の部 | 固定負債 | 76,737 | 10.1 | 95,435 | 12.5 | △ 18,698 | △ 19.6 |
| | 企業債 | 76,737 | 10.1 | 95,435 | 12.5 | △ 18,698 | △ 19.6 |
| | 流動負債 | 30,348 | 4.0 | 28,577 | 3.7 | 1,771 | 6.2 |
| | 企業債 | 18,698 | 2.5 | 20,525 | 2.7 | △ 1,827 | △ 8.9 |
| | 営業未払金 | 9,065 | 1.2 | 5,296 | 0.7 | 3,769 | 71.2 |
| | 営業外未払金 | 1,714 | 0.2 | 1,923 | 0.3 | △ 209 | △ 10.9 |
| | その他未払金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 賞与引当金 | 724 | 0.1 | 692 | 0.1 | 32 | 4.6 |
| | 法定福利費引当金 | 147 | 0.0 | 141 | 0.0 | 6 | 4.3 |
| | その他流動負債 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | － |
| | 繰延収益 | 569,064 | 74.9 | 556,509 | 72.9 | 12,556 | 2.3 |
| | 長期前受金 | 569,064 | 74.9 | 556,509 | 72.9 | 12,556 | 2.3 |
| | 負債合計 | 676,150 | 89.0 | 680,521 | 89.2 | △ 4,371 | △ 0.6 |
| | 資本金 | 45,781 | 6.0 | 45,781 | 6.0 | 0 | 0.0 |
| | 資本金 | 45,781 | 6.0 | 45,781 | 6.0 | 0 | 0.0 |
| | 剰余金 | 37,409 | 4.9 | 36,698 | 4.8 | 711 | 1.9 |
| | 資本剰余金 | 27,292 | 3.6 | 27,292 | 3.6 | 0 | 0.0 |
| | 利益剰余金 | 10,117 | 1.3 | 9,406 | 1.2 | 711 | 7.6 |
| | 資本合計 | 83,191 | 11.0 | 82,480 | 10.8 | 711 | 0.9 |
| | 負債資本合計 | 759,341 | 100.0 | 763,001 | 100.0 | △ 3,660 | △ 0.5 |

ア　資産

資産合計は 759,341 千円で、固定資産が 634,727 千円(有形固定資産 634,720 千円、投資 7 千円)、流動資産が 124,613 千円となっている。

固定資産は、前年度と比べて 31,508 千円(4.7%)減少している。有形固定資産の減少は、減価償却によるものである。

次に、流動資産は前年度と比べて 27,847 千円(28.8%)増加している。その主な要因は、預金が 27,885 千円(29.3%)増加したためである。

イ　負債

負債は676,150千円(固定負債76,737千円、流動負債30,348千円、繰延収益569,064千円)で、前年度と比べて 4,371 千円(0.6%)減少している。

固定負債は、前年度と比べて 18,698 千円(19.6%)減少している。その要因は、企業債が 18,698 千円(19.6%)減少したためである。

流動負債は、前年度と比べて 1,771 千円(6.2%)増加している。その主な要因は、企業債が 1,827 千円 (8.9%) 減少したものの、営業未払金が 3,769 千円(71.2%)増加したためである。

繰延収益は、前年度と比べて 12,556 千円(2.3%)増加している。その要因は、長期前受金が 12,556 千円(2.3%)増加したためである。

なお、当年度末の企業債残高は次の表のとおりで、償還により前年度末と比べて 20,525 千円 (17.7%) 減少している。

**[企 業 債 残 高 等 の 推 移]**

(単位：円)

| 区　　分 | 借入高 | 償還高 | 年度末残高 |
|---|---|---|---|
| 令　和　3　年　度 | 0 | 28,025,235 | 186,690,939 |
| 令　和　4　年　度 | 0 | 23,964,486 | 162,726,453 |
| 令　和　5　年　度 | 0 | 23,467,881 | 139,258,572 |
| 令　和　6　年　度 | 0 | 23,298,414 | 115,960,158 |
| 令　和　7　年　度 | 0 | 20,524,659 | 95,435,499 |

ウ　資本

資本合計は83,191千円(資本金45,781千円、剰余金37,409千円)で、前年度と比べて711千円(0.9%)増加している。

資本金は、前年度と比べて増減なしである。

剰余金は、前年度と比べて711千円(1.9%)増加している。その要因は、利益剰余金が711千円(7.6%)増加したためである。

なお、令和７年度末残高の利益剰余金は、10,117千円であり、うち未処分利益剰余金として5,099千円を翌年度繰越としている。

## [資本金及び剰余金の変動]

(単位：千円)

| 区分 | 資本金 | 剰余金 | | | | | 資本合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | |
| | | 補助金 | 資本剰余金合計 | その他積立金 | 未処分利益剰余金 | 利益剰余金合計 | |
| 令和６年度末残高 | 45,781 | 27,292 | 27,292 | 5,018 | 4,388 | 9,406 | 82,480 |
| 令和６年度処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法令による処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 減債積立金の積立て | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 45,781 | 27,292 | 27,292 | 5,018 | 4,388 | 9,406 | 82,480 |
| 令和７年度変動額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 711 | 711 | 711 |
| 減債積立金からの組入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一般会計補助金からの受入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他積立金への振替 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 令和７年度純利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 711 | 711 | 711 |
| 令和７年度末残高 | 45,781 | 27,292 | 27,292 | 5,018 | 5,099 | 10,117 | 83,191 |

## [剰余金処分計算書]

(単位：千円)

| 区分 | 資本金 | 資本剰余金 | 未処分利益剰余金 |
|---|---|---|---|
| 令和７年度末残高 | 45,781 | 27,292 | 5,099 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 当年度処分額 | 0 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 45,781 | 27,292 | (翌年度繰越利益剰余金)<br>5,099 |

5　経営比較分析

総務省において、各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成される「経営比較分析表」が公表されている。

これは、各公営企業において、経営比較分析表を活用することにより、経年比較や類似団体との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することを可能とするためのものである。

指標の比較については、次表のとおりである。

［経　営　比　較　分　析　表］

| 指　標<br>(　)内は単位 | | 算　出　式 | 令和<br>7年度 | 令和<br>6年度 | 類似団体平均<br>(令和6年度) |
|---|---|---|---|---|---|
| 経営の健全性・効率性 | ①経常収支比率<br>(%) | 経常収益 / 経常費用 ×100 | 101.08 | 100.66 | 103.04 |
| | ②累積欠損金比率<br>(%) | 当年度未処理欠損金 / 営業収益－受託工事収益 ×100 | 0.00 | 0.00 | 100.31 |
| | ③流動比率<br>(%) | 流動資産 / 流動負債 ×100 | 410.61 | 338.62 | 41.03 |
| | ④企業債残高対事業規模比率<br>(%) | 企業債現在高合計－一般会計負担額 / 営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金 ×100 | 0.00 | 0.00 | 796.80 |
| | ⑤経費回収率<br>(%) | 下水道使用料 / 汚水処理費（公費負担分を除く） ×100 | 26.66 | 22.62 | 58.41 |
| | ⑥汚水処理原価<br>(円) | 汚水処理費（公費負担分を除く） / 年間有収水量 ×100 | 758.50 | 907.99 | 267.34 |
| | ⑦施設利用率<br>(%) | 晴天時一日平均処理水量 / 晴天時現在処理能力 ×100 | 32.51 | 34.44 | 52.34 |
| | ⑧水洗化率<br>(%) | 現在水洗便所設置済人口 / 現在処理区域内人口 ×100 | 96.45 | 96.37 | 90.05 |
| 老朽化の状況 | ⑨有形固定資産減価償却率<br>(%) | 有形固定資産減価償却累計額 / 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価 ×100 | 33.85 | 30.30 | 30.49 |
| | ⑩管渠老朽化率<br>(%) | 法定耐用年数を経過した管渠延長 / 下水道布設延長 ×100 | 0.00 | 0.00 | 0.05 |
| | ⑪管渠改善率<br>(%) | 改善（更新・改良・維持）管渠延長 / 下水道布設延長 ×100 | 0.00 | 0.00 | 0.02 |

（注）令和７年度決算に係る経営比較分析表は現時点では未公表であるため、令和７年度の数値は決算審査資料の数値を採用している。

①　経常収支比率　「経常損益」

経常収支比率は、料金収入や他会計補助金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。この指標は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。

令和７年度の経常収支比率は101.08%であったが、これは他会計補助金等によるものであり、経営改善に向けた取組が必要である。

②　累積欠損金比率　「累積欠損」

営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した欠損金

のこと)の状況を表す指標で、累積欠損金が発生していないことを示す 0%であることが求められる。

本市は、累積欠損金が発生していないため、0%で推移している。

③　流動比率　「支払能力」

短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1 年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す 100%以上であることが必要である。

令和 7 年度の流動比率は 410.61%であり、類似団体平均と比べて高い比率となっている。

④　企業債残高対事業規模比率　「債務残高」

料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

本市では、平成 29 年度から繰出基準の精査に伴い、企業債残高対事業規模比率は 0%で推移しているが、実際には企業債残高のピークは過ぎたものの企業債残高は残っており、経営上の大きな負担となっている。

⑤　経費回収率　「料金水準の適切性」

使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標で 100%を下回っている場合、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることを意味する。

令和 7 年度は 26.66%であり、依然として類似団体平均と比べて低い経費回収率となっており、改善が必要である。

⑥　汚水処理原価　「費用の効率性」

有収水量 1 ㎥当たりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標で、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

令和 7 年度は 758 円 50 銭であるが、本市は、1 事業内に 3 地区の処理施設がそれぞれ設置されていることから、汚水処理原価が類似団体平均よりも大きく上回ることになっている。

⑦　施設利用率　「施設の効率性」

施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標であり、明確な数値基準はないと考えられているが、一般的には高い数値であることが望まれる。

令和７年度は 32.51％であり、類似団体平均以下の数値で推移している。

⑧　水洗化率　「使用料対象の捕捉」

現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標である。

令和７年度は 96.45％であり、類似団体平均以上の数値で推移している。

⑨　有形固定資産減価償却率　「施設全体の減価償却の状況」

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。一般的には、数値が高いほど保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。

令和７年度は 33.85％であり、類似団体平均以上の数値で推移している。

⑩　管渠老朽化率　「管渠の経年化の状況」

法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表す指標で、管渠の老朽化度合を示しており、明確な数値基準はないと考えられているが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断しておく必要がある。

本市は、平成６年供用開始で、事業開始から 50 年を経ておらず 0％である。

⑪　管渠改善率　「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

当該年度に更新した管渠延長の割合を表す指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できる。

令和７年度は 0％であり、管渠の更新投資は行われていない。

6　キャッシュ・フロー

このキャッシュ・フロー計算書は、キャッシュ・フローを業務活動、投資活動及び財務活動の三つに区分して表示し、一事業年度の資金収支合計を表示している。

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表している。また、投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の購入、売却等によるもので、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表している。計画的に建設改良等を行っていれば、通常はマイナスとなる。さらに、財務活動によるキャッシュ・フローは、業務活動及び投資活動を行うための資金調達や返済の財務活動に係る資金の状態を表している。

当年度のキャッシュ・フロー計算書は、前年度と比べて次表のとおりである。

## ［キャッシュ・フロー計算書比較表］

（単位：円）

| 区　　分 | 令和７年度（税抜き） | 令和６年度（税抜き） | 増減額 |
|---|---|---|---|
| **1　業務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 当年度純利益（△は純損失） | 710,794 | 481,090 | 229,704 |
| 減価償却費 | 31,507,790 | 31,443,183 | 64,607 |
| 長期前受金戻入額 | △ 20,171,439 | △ 20,019,941 | △ 151,498 |
| 固定資産除却費 | 0 | 0 | 0 |
| 支払利息 | 1,968,702 | 2,415,368 | △ 446,666 |
| 未収金の増減額（△は増額） | 37,400 | 32,000 | 5,400 |
| 賞与引当金の増減額（△は減額） | 38,000 | △ 34,000 | 72,000 |
| 営業未払金の増減額（△は減額） | 3,769,014 | 141,400 | 3,627,614 |
| 営業外未払金の増減額（△は減額） | △ 209,400 | △ 449,200 | 239,800 |
| その他流動負債の増減額（△は減額） | 0 | 0 | 0 |
| **小計　（A）** | 17,650,861 | 14,009,900 | 3,640,961 |
| **利息の支払額　（B）** | △ 1,968,702 | △ 2,415,368 | 446,666 |
| **業務活動によるキャッシュ・フロー（C）＝（A）＋（B）** | **15,682,159** | **11,594,532** | 4,087,627 |
| **2　投資活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 建設改良費（預託金を除く） | 0 | △ 1,316,416 | 1,316,416 |
| 預託金による支出 | 0 | △ 6,860 | 6,860 |
| 建設工事等未払金の増減額（△は減額） | 0 | △ 9,900,000 | 9,900,000 |
| 他会計補助金の収入 | 36,000,000 | 32,000,000 | 4,000,000 |
| 資本的収支特定収入消費税の圧縮記帳分 | △ 3,272,727 | △ 2,909,090 | △ 363,637 |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー（D）** | **32,727,273** | **17,867,634** | 14,859,639 |
| **3　財務活動によるキャッシュ・フロー** | | | |
| 企業債の借入による収入 | 0 | 0 | 0 |
| 企業債の償還による支出 | △ 20,524,659 | △ 23,298,414 | 2,773,755 |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー（E）** | **△ 20,524,659** | **△ 23,298,414** | 2,773,755 |
| **資金増減額　（F）＝（C）＋（D）＋（E）** | **27,884,773** | **6,163,752** | **21,721,021** |
| **資金期首残高　（G）** | **95,135,062** | **88,971,310** | **6,163,752** |
| **資金期末残高　（H）＝（F）＋（G）** | **123,019,835** | **95,135,062** | **27,884,773** |

## 7　むすび

令和７年度の業務実績をみると、処理区域内人口は 479 人で、前年度と比べて 17 人減少した。人口普及率は前年度と変わりはないが、水洗化率は 96.5％で前年度と比べて 0.1 ポイント上昇した。

経営成績をみると、消費税及び地方消費税を除く下水道事業収益は 66,785 千円、下水道事業費用は 66,075 千円で、損益収支の 711 千円を当年度純利益に計上したが、営業収益から営業費用を差し引いた営業収支は 53,789 千円の赤字であり、依然として費用は収益で賄えておらず、他会計補助金に依存する状況が続いている。

また事業運営の基本となる汚水処理原価と使用料単価との関係では、汚水処理原価は 758 円 50 銭、使用料単価は 202 円 22 銭で、使用料単価を上回る 556 円 28 銭の差損が生じている。事業運営の基本となる汚水処理費用をどの程度使用料で賄えているかを表す指標である経費回収率は 26.66％で、前年度と比べて 4.04 ポイント上昇している。

次に財政状態をみると、経常収支比率は 101.08％で、前年度と比べて 0.42 ポイント上昇した。流動比率は 410.61％で、前年度と比べて 71.99 ポイント上昇している。

令和７年度も処理区域内人口の減少に伴う使用料収入は減少し、処理場の老朽化に伴う修繕費や施設整備の企業債償還が続く厳しい経営状況である。

今後も他会計補助金に依存する状態が続くと考えられるが、経営成績や財政状態を見通しながら、「京田辺市下水道ビジョン」及び「京田辺市下水道事業経営戦略」を基に、効率的で計画的に施設の維持管理を進め、地域の生活環境の改善、公衆衛生の向上及び公共水域における水質保全など区域内住民の生活を支える欠くことのできない社会基盤として、持続可能な事業運営となるよう努められたい。